HITACHI

SUSTAINABILITY BOOK 2026



さあ、世界を、
未来を、変えていこう。

Contents

03 トップメッセージ

05 サステナビリティ価値創造

06 指標と目標

07 Sustainability for all 社会への価値提供

08 「知る力」で、社会により良い変化をもたらす
— 日立ハイテクの社会インパクト —

09 技術をコアにした「知る力」で社会課題を解決していく「デジタライズドアセット」

10 HMAX Industry活用事例 株式会社パウレック／
材料開発DXソリューションブランド「PROACCELA」へ刷新

11 製品開発時の環境配慮設計による環境価値の創出

12 事例 エコデザインの追求で半導体製造のCO_2削減に貢献
「高精度電子線計測システム GT2000」

13 就労・社会参加との両立を実現するがん治療

14 事例 がん治療の選択肢を広げる、日立ハイテクの粒子線治療

15 鉄道利用者の安全確保

16 事例 国内初・4Kカメラ搭載の電車線路モニタリング装置を開発
検査業務の省力化を実現し、鉄道の安全・安心・安定輸送に貢献

17 科学の力で未来を切り開く人財の創出

18 事例 北米を中心とした地域における理科教育支援活動

19 Planet 持続可能な地球環境への貢献

20 脱炭素の実現に向けて

21 事例 CDP「気候変動」「ウォーター」において最高評価「Aリスト」企業
およびサプライヤーエンゲージメントリーダーに2年連続で選定

22 Pickup 1 社員参加型「田植え体験イベント」／Pickup 2 社員食堂サステナブルメニュー

23 Leadership Empowerment Diverse perspectives 多様な人財の育成と活用

24 Special contents 現代の名工×次世代リーダー

25 「人こそ企業の財産」一人ひとりの価値向上をめざして

26 事例 自分らしい働き方を、全てのライフステージで 仕事と家庭の両立支援

27 事例 違いを強みに変え、一人ひとりが活躍できる環境へ

28 Governance Engagement 健全な経営基盤の確立

29 Special contents 設計×知財

30 お客さまの信頼に応える品質保証

31 事例 AI活用推進／9年連続健康経営優良法人認定／
EcoVadis社のサステナビリティ評価「ゴールド」獲得／各製造拠点で取引先説明会を開催

日立ハイテク総合お問い合わせ



株式会社 日立ハイテク
代表取締役 取締役社長
高木 由充

真の課題を「知る力」で捉え、社会価値の創出に挑む

PLEDGESのもと、「知る力」を起点とした社会価値の創出

当社グループは、日立グループサステナビリティ戦略「PLEDGES」のもと、事業を通じた社会価値の創出に取り組んでいます。私たちは最先端の計測・分析技術とグローバルな事業基盤を通じて、ステークホルダーの皆さまとともに、健康で安心な暮らしの実現、環境負荷の低減、産業の持続的な発展に貢献しています。

当社事業は、半導体、ヘルスケア、先端材料、産業・社会インフラなど、多様な領域でお客さまの現場に寄り添い、その課題への理解を深めてきました。各種の高度なセンシングテクノロジーを備えた世界トップクラスのプロダクトは、状態や変化をデータとして捉え、新たな知見につながる情報を生み出してきました。現場への深い理解とプロダクトが生み出すデータから目の前の課題だけではなく、その裏に潜む本来解決すべき課題を明らかにする力、真の課題を「知る力」が私たちの強みです。

フィジカルAIとデジタライズドアセットが切り拓く新たな可能性

「知る力」で明らかにした真の課題を解決へと導く鍵となるのが、デジタルセントリックな価値創出です。当社グループの装置―半導体製造・計測装置、医用分析装置、放射線治療システム、分析・解析装置などは、価値の源泉となるデータを生み

出す「デジタライズドアセット」です。装置から得られるリアルなデータに私たちが長年培ってきたドメインナレッジとAIを掛け合わせることで、データを新たな価値へと転換していきます。「Lumada 3.0」のもと、産業分野向け次世代ソリューション群「HMAX™ Industry」を通じて、お客さまの現場に新たな価値を創出していきます。

創出した価値を生かすために、お客さまの現場では、現実世界を理解・判断し、実際に動作するAI「フィジカルAI」が活躍しています。当社グループは、「フィジカルAI」の現場適用を強化する技術として、装置に直接組み込めるエッジAI半導体を日立製作所と共同で開発しました。データが生まれるその場で解析・判断する「プロダクトの知能化」をさらに進めることで、私たちは「デジタライズドアセット」の価値を高め、クラウドから現場まで、AIを活用できる領域を広げていきます。

お客さまのライフタイムバリュー最大化に貢献

私たちが創出する新しい価値は、お客さまの現場での成果につながることで完成します。私たちのエンジニアリングとプロダクトの力で、研究開発（Lab）から量産（Fab）までを一気通貫で支援し、開発期間の短縮、品質・生産性向上、資源の効率的な活用の実現をめざします。さらに、お客さまの製品の量産後の運用・保守まで見据えたライフサイクル全体で価値を提供することで、Lab to Fabに携わるお客さまのライフタイムバリューの最大化に貢献していきます。



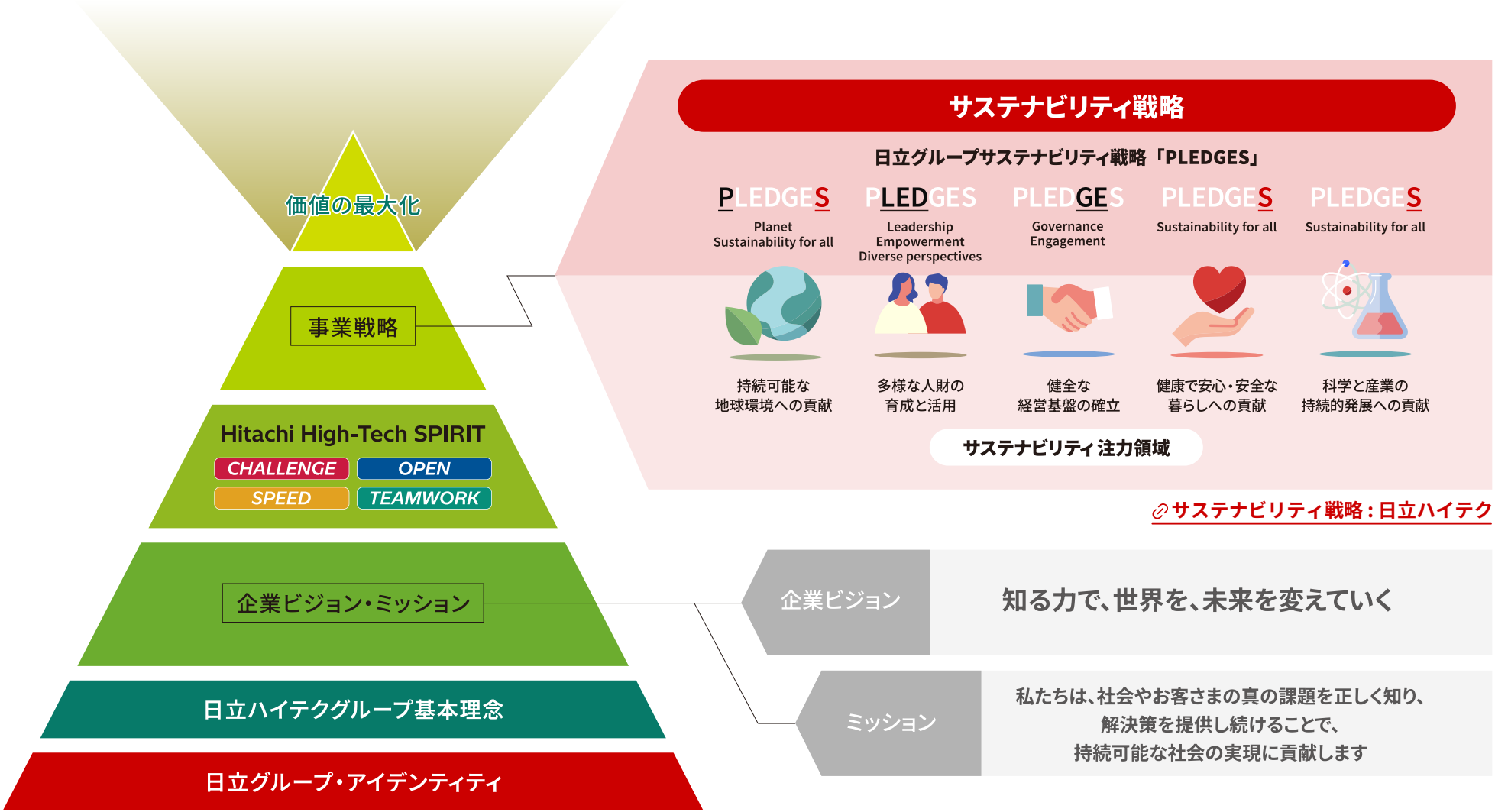
ハーモナイズドソサエティの実現に向けて

私たちが向き合う社会課題は、年々複雑さと難しさを増しています。容易に答えの見つからない課題であるからこそ、私たちはお客さまとの対話を重ね、現場の声やデータから本質を捉え、解決に向けた一歩を着実に踏み出すことを大切にしています。解決に導いた結果生まれる社会価値を常に意識し、私たちは従来の知見や経験に加え、新たな技術や発想を柔軟に取り入れ、失敗を恐れず挑戦を重ねていきます。

ステークホルダーの皆さまとともに、一つひとつの挑戦から生まれる価値を社会へと実装し、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現をめざしてまいります。

サステナビリティ価値創造

日立ハイテクグループは、日立グループサステナビリティ戦略「PLEDGES」に基づき「サステナビリティ注力領域」を定めています。知る力を発揮して真にアプローチすべき課題を特定し、「サステナビリティ注力領域」をベースに事業を展開することで財務・未財務価値を最大化し、企業ビジョンを実現していきます。



サステナビリティ戦略：日立ハイテク

指標と目標

サステナビリティ注力領域に対する取り組みを促進・モニタリングするために、各注力領域に関連する目標（めざす姿）を掲げています。

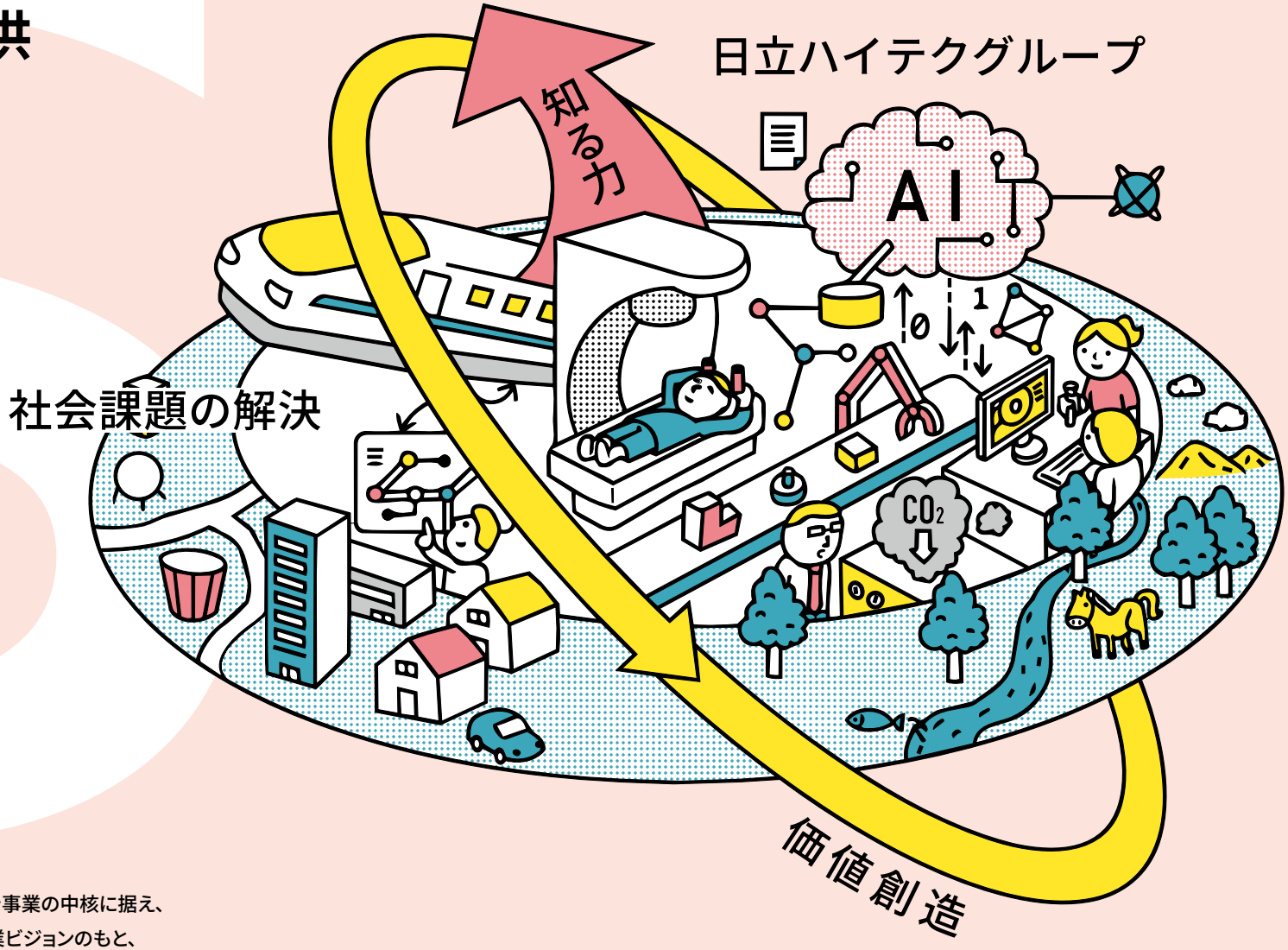
PLEDGES	サステナビリティ注力領域	含まれるテーマ	めざす姿
PLEDGES Planet	持続可能な 地球環境への貢献	脱炭素 サーキュラーエコノミー ネイチャーポジティブ	2025～2027年度 環境行動計画の推進 *1
PLEDGES Leadership Empowerment Diverse perspectives	多様な人財の 育成と活用	人財の獲得・育成、 個々人のリーダーシップ	人財投資を通じた一人ひとりの価値向上： 成長マインドセットスコア（FY27_70ポイント）
		従業員エンゲージメント、 カルチャー醸成	人財投資を通じた一人ひとりの価値向上： エンゲージメントスコア（FY27_80ポイント）
		インクルーシブな職場と 成長機会	多様な人財の活躍の場の創出
PLEDGES Governance Engagement	健全な 経営基盤の確立	企業倫理・ コンプライアンス	企業倫理・コンプライアンスの意識向上と 倫理的な行動の促進
		安全衛生	安心・安全な職場環境の確立： 総災害発生率［20万労働時間当たりの総災害発生率］（FY27_0.1以下） 重大災害件数（FY27_0件）
		品質・製品安全	製品事故に関する反省会「落穂拾い」への役員の参加率100%
		情報セキュリティ	情報セキュリティの徹底
		AIガバナンス	AI活用の適切な推進とリスク管理の徹底
		リスクマネジメント	リスクマネジメントの高度化
		サステナブル調達	調達パートナーとともに 持続可能なサプライチェーンを実現
		人権	バリューチェーンにおける人権の尊重
		イノベーションの創出	イノベーションを生む技術革新と発想
		デジタル プラットフォーム	事業の加速に向けた 新技術とデジタルツールの活用

PLEDGES	サステナビリティ注力領域	含まれるテーマ	めざす姿
PLEDGES Sustainability for all	持続可能な 地球環境への貢献	脱炭素	社会への価値提供	製品開発時の環境配慮設計による 温室効果ガス排出量削減 *1への貢献 GXに貢献する製品・サービスや ソリューションの年間売上拡大 *1 先端テクノロジーとバリューチェーンを 通じた環境負荷の低減
		サーキュラーエコノミー	社会への価値提供	サーキュラートランスフォーメーションに 向けた電池の開発・製造・再生 バリューチェーンにおける資源の 有効利用の推進
		ネイチャーポジティブ	社会への価値提供	生物多様性保全への貢献
	健康で安心・安全な 暮らしへの貢献	ヘルスケア	社会への価値提供	就労・社会参加との両立を実現する がん治療 一人ひとりに最適な医療の実現
		QoL向上	社会への価値提供	鉄道利用者の安全確保 デジタル社会に対応したインフラの発展
		暮らしの安全性	社会への価値提供	解析・分析の技術による 暮らしの安全性確保
	科学と産業の 持続的発展への貢献	科学と産業の発展	社会への価値提供	技術をコアにした「知る力」で社会課題を 解決していく「デジタライズドアセット」 産業の現場における生産性の向上 サプライチェーン全体のレジリエンス強化 半導体の技術革新と安定供給
		未来人財の創出	社会への価値提供	科学の力で未来を切り開く人財の創出

*1 2025～2027年度 環境行動計画

Sustainability for all

社会への価値提供



日立ハイテクグループは、サステナビリティ戦略を事業の中核に据え、
「知る力で、世界を、未来を変えていく」という企業ビジョンのもと、
社会やお客さまの真の課題を知ることを起点に価値を創出しています。
「フロント」と「テクノロジー」が生み出す強いプロダクトとデータ活用を通じて、
環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現に貢献していきます。

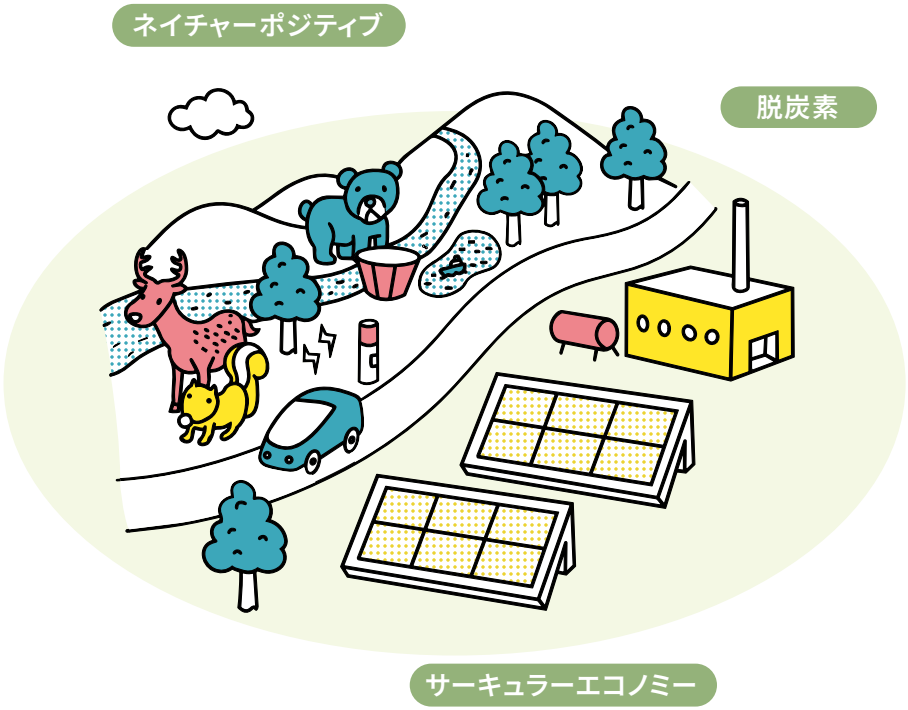
ハーモナイズドソサエティの実現

「知る力」で、社会により良い変化をもたらす

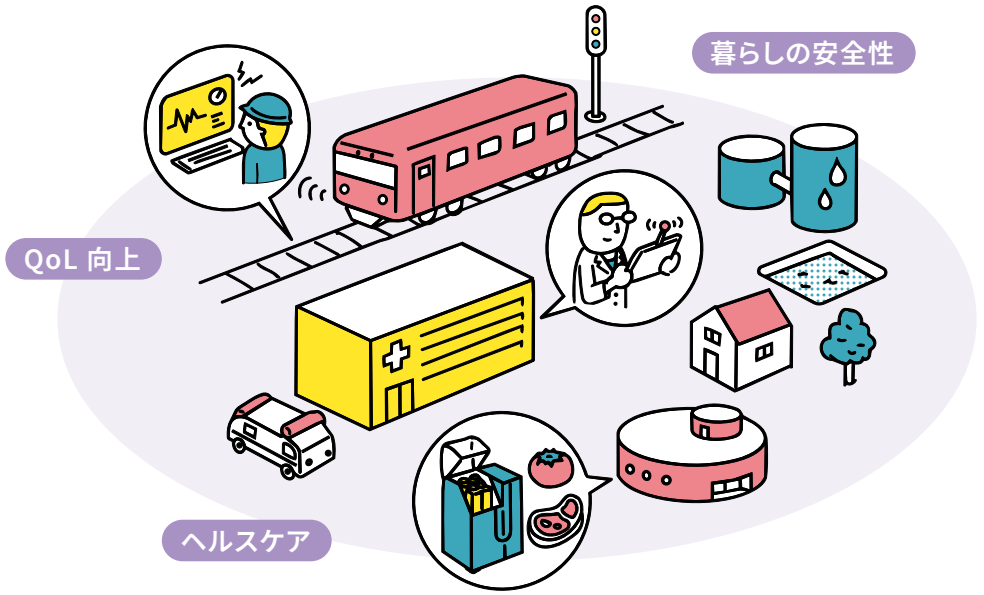
―日立ハイテクの社会インパクト―

日立グループサステナビリティ戦略「PLEDGES」のもと、
経営上の重要課題を「サステナビリティ注力領域」として定め、
事業を通じた具体的な取り組みへと展開しています。
そのうち社会への価値提供に関わる「持続可能な地球環境」、
「健康で安心・安全な暮らし」、「科学と産業の持続的発展」の
3つの領域において、事業活動を通じて社会課題の解決に貢献していきます。

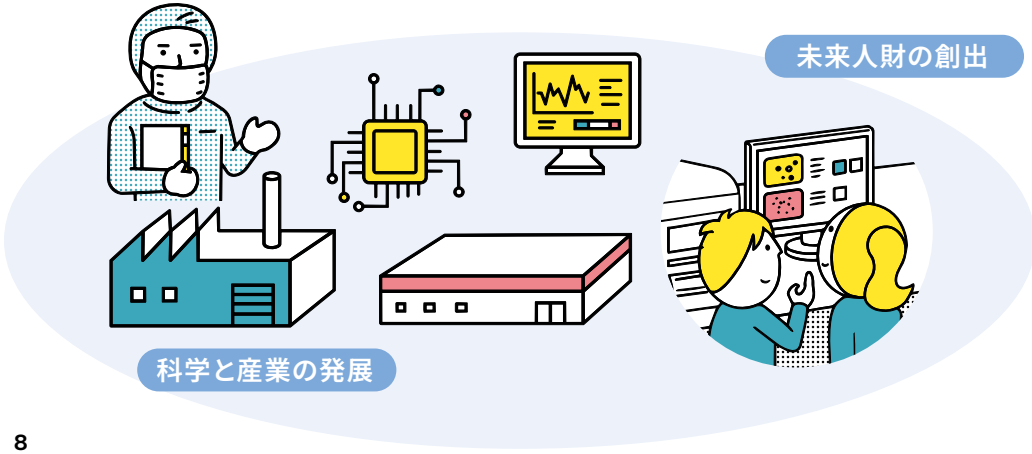
❶ 持続可能な地球環境への貢献



❷ 健康で安心・安全な暮らしへの貢献



❸ 科学と産業の持続的発展への貢献

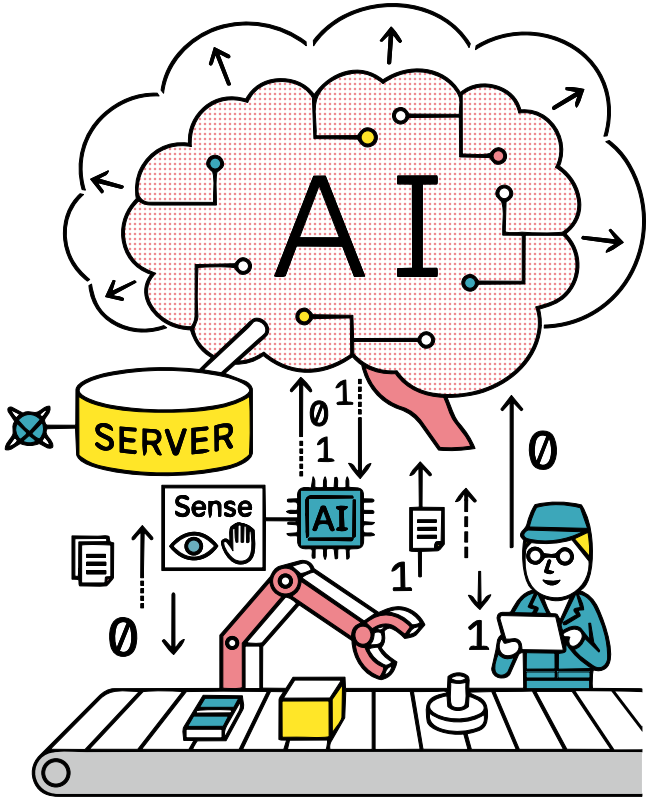


技術をコアにした「知る力」で社会課題を解決していく「デジタライズドアセット」

フロントラインワーカーが新たな発見や価値を生み出せる社会へ

ビルや工場などに向けて、安全、生産性・品質向上、環境配慮といった価値を提供し、フロントラインワーカーが活躍する現場の革新と、人々のウェルビーイング向上に貢献する次世代型AIソリューション群「HMAX™ Industry」。

製造・産業現場において、当社グループの製品・機器・設備などのアセットから得られるデータに、当社が長年培ってきたドメインナレッジ、お客さまの知見、AI技術を掛け合わせることで、現場での迅速かつ最適な判断、研究開発の加速、生産性向上、設備の安定稼働などを支援します。こうしたデータとドメインナレッジ、AIを組み合わせた価値創出を、HMAX Industryを通じた現場革新につなげていきます。



次世代型AIソリューション群「HMAX™ by Hitachi」

HMAX™ by Hitachi（以下、HMAX）は、AIで社会インフラを革新する次世代ソリューション群です。フィジカル・デジタル双方のアセットから得られるデータを活用し、先進的なAIを日立ならではの深いドメインナレッジで強化することで、社会インフラが抱える複雑な課題に挑み、お客さまと社会に最大の成果と価値を提供します。

HMAX Industryとは？

ビルや工場などの産業分野を対象とした、HMAXのドメイン対応型ソリューション群の一つ

HMAXの構成要素



HMAX Industryを支えるフィジカルAIの基盤技術としてエッジAI半導体を開発

フィジカルAIとは？

機械に搭載されたカメラやセンサーで周囲の状況を把握し、AIがリアルタイムに判断して、実際の機械やロボットを動かす技術のこと

日立および日立ハイテクは、HMAX Industryを支えるフィジカルAIの基盤技術として、産業機器等に搭載可能なエッジAI半導体を開発しました。従来比10倍以上の電力効率を誇り、画像や振動等の現場データを装置内でリアルタイム解析することで、専用サーバなしで高度な処理を行い、品質安定化や歩留まり・生産性向上に貢献します。

My PLEDGES



事業戦略本部
陳 さん

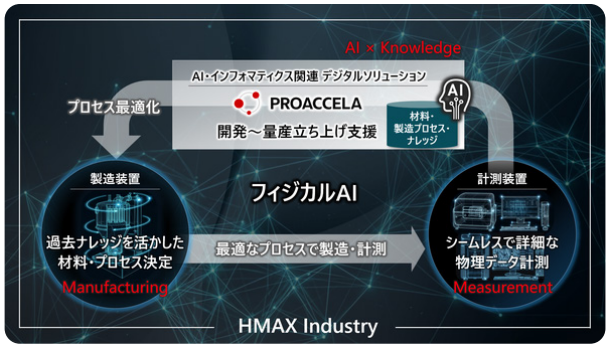
先端計測の価値をつなぎ科学と産業に貢献

電子顕微鏡の「知る力」で顧客の技術開発と生産歩留まり向上を支えて、市場・顧客・競合の洞察を製品・技術戦略へつなぎ、半導体と先端材料の技術革新をさらに加速し、人々の豊かな暮らしと持続可能な社会の実現に貢献します。

HMAX Industry 活用事例

株式会社パウレック

フィジカルAIを活用し 全固体電池向けコーティングプロセスの最適化へ



液体電解質の代わりに固体電解質を用い、高い安全性と高エネルギー密度が期待される全固体電池。その製造工程では、正極活物質 *1 のコーティングプロセスの最適化に高度な専門知識や経験が必要であり、条件探索の属人化が大きな課題となっていました。これを改善すべく、日立ハイテクはパウレックとの協業を開始しました。

粉体処理技術のリーディングカンパニーであるパウレックが長年培ってきた「コーティング技術」「ドメインナレッジ」「豊富な運用データ」と、日立ハイテクの解析・分析技術やAI、インフォマティクス技術を融合したフィジカルAIを活用。正極活物質へのコーティング条件の最適化に取り組みました。コーティング状態を定量的に評価する手法の開発と、プロセス・インフォマティクス *2による条件探索を通じて、高品質かつ再現性の高いコーティング条件を効率的に導出。本実証内容を「HMAX Industry」のラインアップとして提供し、Lab to Fab*3における全固体電池の開発や量産立ち上げの期間短縮、高品質な全固体電池の安定供給への貢献をめざします。

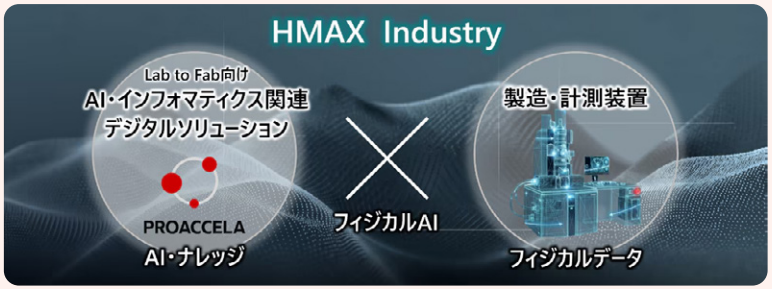
今後は、「HMAX Industry」を通じた最適なコーティングプロセス提案の事業化を推進します。さらに、電池分野にとどまらず、高機能材料、医薬品、化学分野などへの展開も視野に入れ、データとAIを活用した高付加価値なモノづくりの実現に貢献していきます。

*1 電池反応で電子を受け取る物質、主にリチウムイオンを含んだ金属酸化物が使用される
*2 製造・実験プロセスにおける条件や計測のデータ等を用いて統合的に解析し、性能予測や最適な製造プロセス条件の探索をデータ駆動で導き出す技術
*3 R&D～量産を一貫支援し、開発から市場投入までの期間（Time to Market）短縮などの価値を創出する事業モデル

検証により期待される効果

- 試作・検証工数の削減
- コーティング条件検討の効率化・高度化
- 高品質コーティングの安定実現
- 開発・量産立ち上げ期間の短縮
- 品質安定化・生産性向上

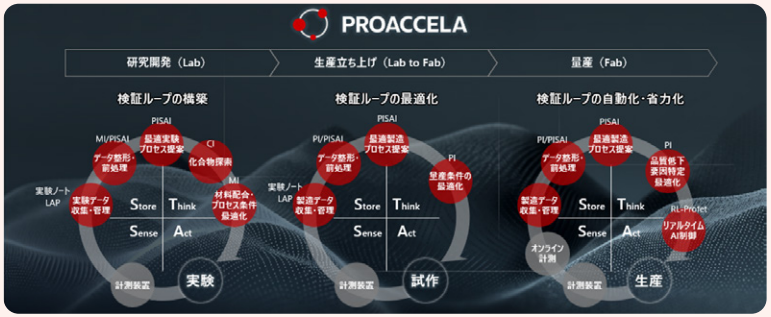
研究開発から量産設計までを一貫支援 材料開発DXソリューションブランド「PROACCELA」へ刷新



日立ハイテクは、AIおよびインフォマティクス技術を活用した材料開発DXソリューションブランド「PROACCELA」を刷新しました。これまで個別に展開していた機能を統合し、研究開発（Lab）から量産（Fab）に至るまでの一貫したデータ活用と高度化をサポートします。

PROACCELAは特許や論文などの公知情報に加え、企業内に蓄積されたナレッジや実験データを活用し、量産プロセスの提案や仮想空間でのシミュレーションや最適化を実現します。データ収集からAI-readyなデータに管理し、データを利活用していく一連のプロセスを効率化し、研究者や技術者が、よりコアな業務に集中できるよう支援します。またツールの提供だけではなく、FDE（Forward Deployed Engineer）*4が顧客に伴走し、課題解決から価値創出までを支援します。

*4 顧客の事業の現場に直接入り込み、経営課題の特定から、PoCによる早期の価値検証、実業務へのアジャイルな実装まで一気通貫で行う専門家集団

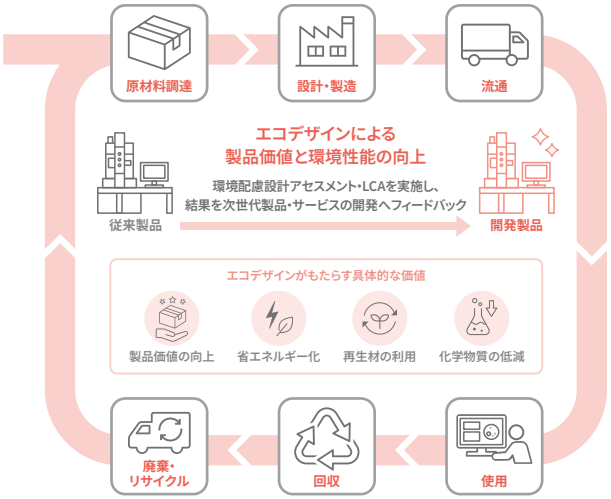


製品開発時の環境配慮設計による環境価値の創出

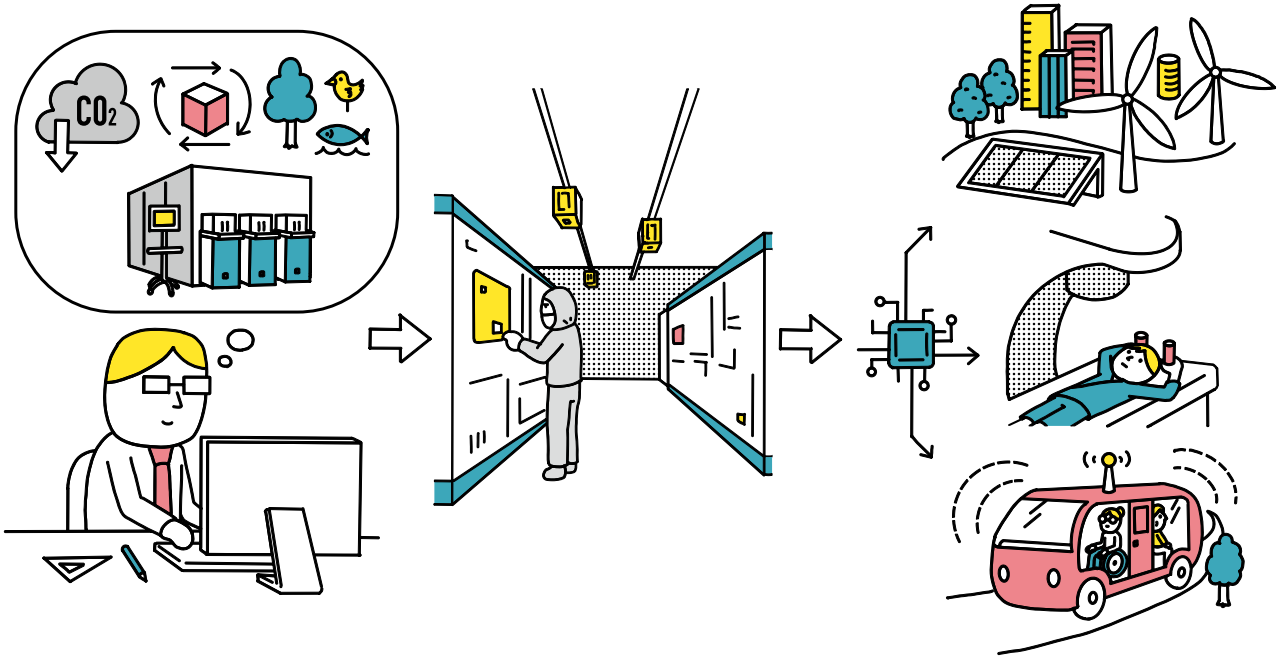
お客さまとその先にある社会を見据え、環境価値を創出

お客さまの持続可能な事業活動を支えるため、日立ハイテクでは、環境に配慮した製品・サービスの開発に取り組んでいます。開発の初期段階からライフサイクル全体の環境負荷を考慮し、製品性能の向上と環境負荷の低減を両立させています。2016年度からは、設計行為を伴う全ての新規開発製品にエコデザイン（環境配慮設計）の考え方を取り入れ、環境配慮設計アセスメントとライフサイクルアセスメント（LCA）を実施しています。エコデザインを通じて、お客さまによる製品使用時のGHG排出量削減をはじめ、資源循環性の向上や有害化学物質の低減など、多面的な環境価値の創出をめざしています。例えば、半導体製造装置の分野では、こうした環境価値をお客さまの製造工程に届けることで、その先にある再生可能エネルギーや医療、モビリティなど、半導体が支える持続可能な社会の実現に貢献していきます。

製品ライフサイクル全体で取り組むエコデザイン



Lab to Fab, Fab to Society



My PLEDGE S



電子線応用システム
設計部
佐々木 さん

みんなの力で、世界一の環境調和型CD-SEMを実現する

関係者の力を結集し、環境性能と計測性能を両立する世界一の環境調和型CD-SEMを実現します。関わる全ての人が誇れる製品開発をめざします。



プロセス装置
設計部
寺内 さん

環境負荷を低減する製品で、ハイテクプロセスをシンプルに

部品調達から装置の廃棄まで、製品ライフサイクル全体の環境負荷を評価し、従来機と比べて環境負荷の小さい装置の実現をめざしています。エッチング性能向上と環境価値向上を両立すべく奮闘中！

事例

エコデザインの追求で半導体製造のCO_2削減に貢献「高精度電子線計測システム GT2000」



「マリンサイト」は太陽光や水力発電による電力、地熱利用などでカーボンニュートラルを達成



半導体製造を支える“超精密なものさし”

生成AIや自動運転、次世代通信の進展により、半導体の需要は急速に拡大しています。一方で、性能向上に伴い回路パターンはますます微細化・複雑化しており、その製造にはナノメートル（1mmの100万分の1）レベルの高精度な計測が欠かせません。

そこで重要な役割を果たすのが、日立ハイテクの測長SEM（走査電子顕微鏡）です。測長SEMは、シリコンウェーハ上に形成された半導体デバイスの寸法を計測する装置で、いわば半導体製造における「超精密なものさし」です。日立ハイテクは1984年に世界初の測長SEMを発売して以来、世界トップクラスのシェアを維持しています。

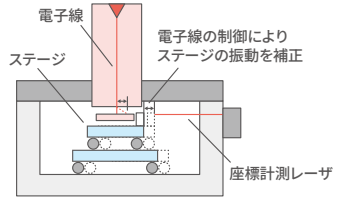
高精度と低環境負荷を両立した「GT2000」

2023年に発売された最新機種「高精度電子線計測システムGT2000」は、2ナノメートル世代の先端半導体に必要な高精度計測要求に対応しながら、環境負荷の低減にも貢献する装置です。

特長の一つは、従来機と比べてスループットを25%向上させたことです。スループットとは、一定時間内に計測することができるウェーハの枚数を意味します。GT2000は、従来機と同じ時間でより多くのウェーハを計測できるため、ウェーハ1枚あたりの消費電力やCO_2排出量の削減につながっています。

測長SEMでは、ナノオーダーの計測精度が求められるため、従来は画像取得ごとにブレーキをかけて振動を抑えていましたが、GT2000では日立ハイテクが持つ制御技術と計測技術を高度に連携させることで、ブレーキをかけずに高精度な計測を実現しました（図1）。さらに、日立グループの解析技術を活用して構造や制御を最適化し、ステージの移動速度も向上させました。

図1



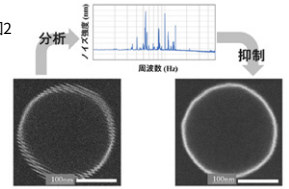
ステージ振動を補正する電子線制御システム

小型化・省電力化を実現

GT2000では、小型・高効率な「スイッチング電源」を採用し、従来機種比で約20%の小フットプリント化（装置の設置面積の削減）を実現しました。

スイッチング電源は省エネルギー性に優れる一方、計測精度に影響を与えるノイズが発生しやすく、測長SEMへの適用は容易ではありませんでした。そこで開発チームは、ノイズを詳細に解析する技術を確立し、その影響を抑制する電子線制御システムを開発。高精度な計測性能を維持しながら、省電力化と装置のコンパクト化を実現しました（図2）。

図2



スイッチング電源のノイズが重畳するSEM画像（左下）の分析結果（中央上）と抑制結果（右下）の一例

製造・開発プロセスでも環境負荷を低減

GT2000の環境配慮は、装置そのものだけにとどまりません。製造は、茨城県ひたちなか市のスマートファクトリー「マリンサイト」で行われています。同工場では再生可能エネルギーの活用などにより、製造時のCO_2排出量実質ゼロを実現しています。

また、設計段階ではMR（複合現実）技術を活用することで試作回数を削減。開発時に必要な材料の使用量を抑え、製品化までのプロセス全体で環境負荷の低減に取り組んでいます。

半導体産業の持続可能な成長を支える

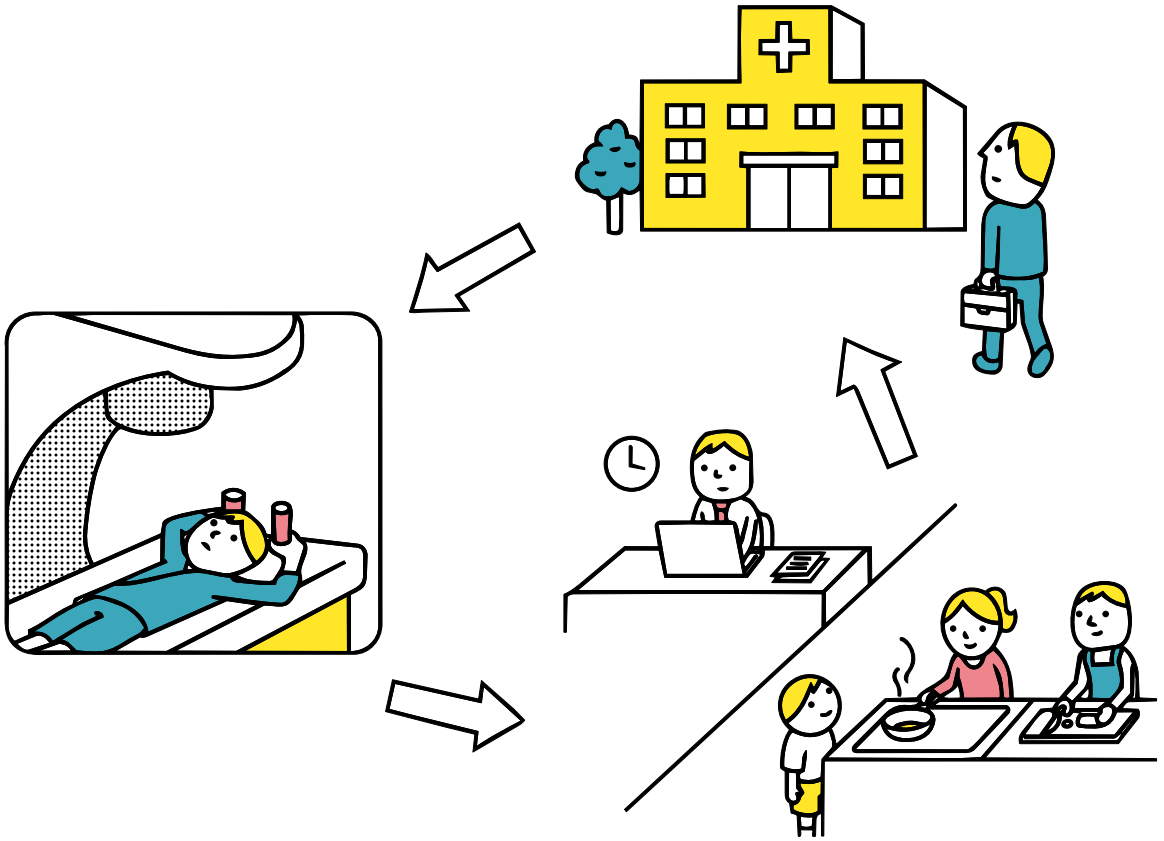
半導体工場では、測長SEMが数百台規模で導入されることもあります。そのため、装置1台あたりの省電力化や処理能力向上がもたらす効果は決して小さくありません。

GT2000は、半導体の品質と生産性を支える「超精密なものさし」としての役割を果たしながら、製造現場のCO_2削減にも貢献しています。デジタル社会を支える半導体産業の発展と、持続可能な社会の実現。その両方を支える装置として、重要な役割を担っています。

就労・社会参加との両立を実現するがん治療

治療を続けながら、自分らしく生きられる社会へ

　がんと向き合いながらも、仕事や学業、地域活動など、自分らしい生活を続けられる社会の実現に向け、日立ハイテクは、身体への負担軽減と高精度な照射を追求する粒子線治療システムやX線治療システムを通じた患者一人ひとりのQoL向上に貢献しています。治療と日常生活の両立を支え、社会とのつながりを保ちながら前向きに暮らせる未来の実現を見据えています。



身体的負担の少ない次世代放射線治療システムの提供

日立ハイテクでは、低侵襲・低被ばくの放射線治療システムを提供することで患者さまの苦痛を軽減し、より少ない通院で済むがん治療をめざしています。

粒子線治療システム

さまざまな種類のがんに対し医療機関が最良の治療を選択できるよう、陽子線、重粒子線、および複数のイオン種を照射できるハイブリッドシステムを展開しています。スポットスキャニング技術や動体追跡機能を備えています。



X線治療システム

画像誘導型高精度X線治療装置「OXRAY」を展開しています。Oリング構造と2軸回転機構により、寝台を動かさず多方向から照射が可能。画像誘導と動体追跡技術を組み合わせ、病巣へピンポイントに高精度な照射を行います。



My PLEDGE S



粒子線事業推進部
野本 さん

粒子線治療を選択肢にし、がんを恐れない社会へ

治療の選択肢が広がることは、社会の安心につながります。陽子線治療の現場を支えながら、その有効性と価値を伝え、がんと前向きに向き合える社会をめざしていきます。



設計部
藤原 さん

患者さまが安心して治療を受けられる環境を支える

治療を予定どおり継続できることは、患者さまの大きな安心につながります。信頼性の高い設計を追求することで、安心して治療を受けられる環境を支えます。

事例 がん治療の選択肢を広げる、日立ハイテクの粒子線治療

がん治療では、患者の身体への負担を抑えながら、治療することが求められています。その一つとして注目されているのが、粒子線がん治療です。
水素の原子核や炭素イオンを加速器で光速の約70%まで加速し、腫瘍に集中して照射します（陽子線は水素の原子核、重粒子線は炭素イオンを加速）。
治療に伴う痛みがほとんどなく、他の放射線治療に比べて副作用が少ないため、治療と社会生活を両立しながら、生活の質（QoL）を維持できる治療法として注目されています。
日立ハイテクは、高精度な照射技術と治療環境の整備を通じて、患者一人ひとりに寄り添うがん治療を支えています。

筑波大学附属病院の陽子線治療施設を更新

日立ハイテクは、戸田建設、ビケンテクノ、三菱HCキャピタルとともに、PFI方式[*1]による筑波大学附属病院陽子線治療施設整備運営事業を推進しています。本事業は、日本で初めてとなる陽子線治療施設の更新です。新施設には、スポットスキャニング照射技術などを搭載した陽子線がん治療システムと、加速器、2室の回転ガントリ治療室を整備し、2025年9月29日に治療を開始しました。

特徴の一つが、限られた敷地の中で、診療を継続しながら施設を更新したことです。既存施設に隣接する敷地にコンパクトな加速器室と治療室を配置するとともに、新施設の建設中には既存施設の一部を継続利用するための改修工事も実施。診療を通常通り続けられる施工ステップを採用しました。限られた敷地で陽子線治療システムを更新する際のモデルケースとなる取り組みです。

本事業では、施設の完成後も20年にわたり、4社それぞれの専門性を生かして、筑波大学附属病院のパートナーとして安定した治療環境を支えていきます。代表企業を務める日立ハイテクは、陽子線治療システムの調達から運転・保守管理までを担います。

筑波大学附属病院では、1983年から世界に先駆けて陽子線によるがん治療研究に取り組み、これまで9,166名（2026年7月末時点）の患者に治療を提供してきました。日立ハイテクは、本事業における陽子線治療システムの運転・保守管理を通じて、安定した治療環境の維持を支えていきます。

*1 PFI（Private Finance Initiative）方式：公共施設などの建設や運営、維持管理などを、民間の資金や経営能力、技術を活用して行う手法



陽子線治療センター外観



治療室内部の様子

東京都立駒込病院に陽子線治療システムを導入

日立ハイテクは、東京都立駒込病院に新設される陽子線治療システム一式を受注しました。本事業では、竹中工務店、日立ハイテク、横河建築設計事務所の3社で構成されるグループが実施事業者に選定されています。当社は陽子線治療装置などの調達・据付を担い、新たな治療環境の整備を進めます。

東京都立駒込病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として、東京都のがん医療における中心的な役割を担っています。都全体の医療水準の向上や医療提供体制の構築にも取り組む同院に、陽子線治療施設が新設されます。

新施設はコンパクトな配置で構成され、加速器一式と2室の回転ガントリ治療室を備えます。限られた敷地を生かしながら、陽子線治療を提供するための環境を整備します。

日立ハイテクは、世界の医療機関に粒子線がん治療システムを提供し、これまでに120,000名[*2]以上の患者が治療を受けるなど、高い信頼性と実績を有しています。こうした技術と実績を生かし、新たな陽子線治療施設の整備を通じて、患者の治療の選択肢を広げる環境づくりに貢献していきます。



陽子線治療センター外観

*2 PTCOG（Particle Therapy Co-Operative Group）のWebサイトで公開された2024年12月までのデータを集計したもの

鉄道利用者の安全確保

誰もが安心して鉄道で移動できる社会を支える

通勤や通学、旅行など、日々鉄道を利用する人々は、安全で快適な移動によって社会や地域とのつながりを広げています。こうした、社会に不可欠な鉄道インフラは、レールや架線といった鉄道設備の状態を精緻に把握する高度な検査・計測技術によって足元から支えられています。日立ハイテクは、効率的で高精度の検査装置を必要とする鉄道事業者、そして、鉄道を利用する全ての人々のために、軌道検測と架線検測のみならず最先端の技術開発を進めています。

日立ハイテクの鉄道関連製品

周辺設備測定

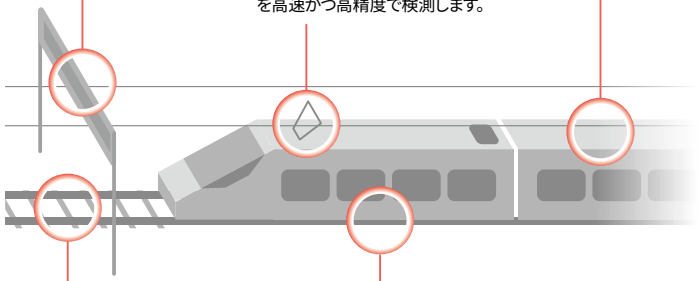
周囲の障害物、構造物、トンネル断面など、安全走行に必要な項目を走行しながら測定。カメラ画像も合わせて測定結果判定と解析も可能です。

トロリ線（架線）検測

電気を供給する架線は、異常があると車両や周辺設備に損害を与えてしまいます。架線の異常を防ぐため、摩耗・偏位・高さを高速かつ高精度で検測します。

電車線路設備検査

在来線営業車両の屋根上に設置した4Kカメラで電車線路設備を動画撮影し、机上での検査を可能とします。

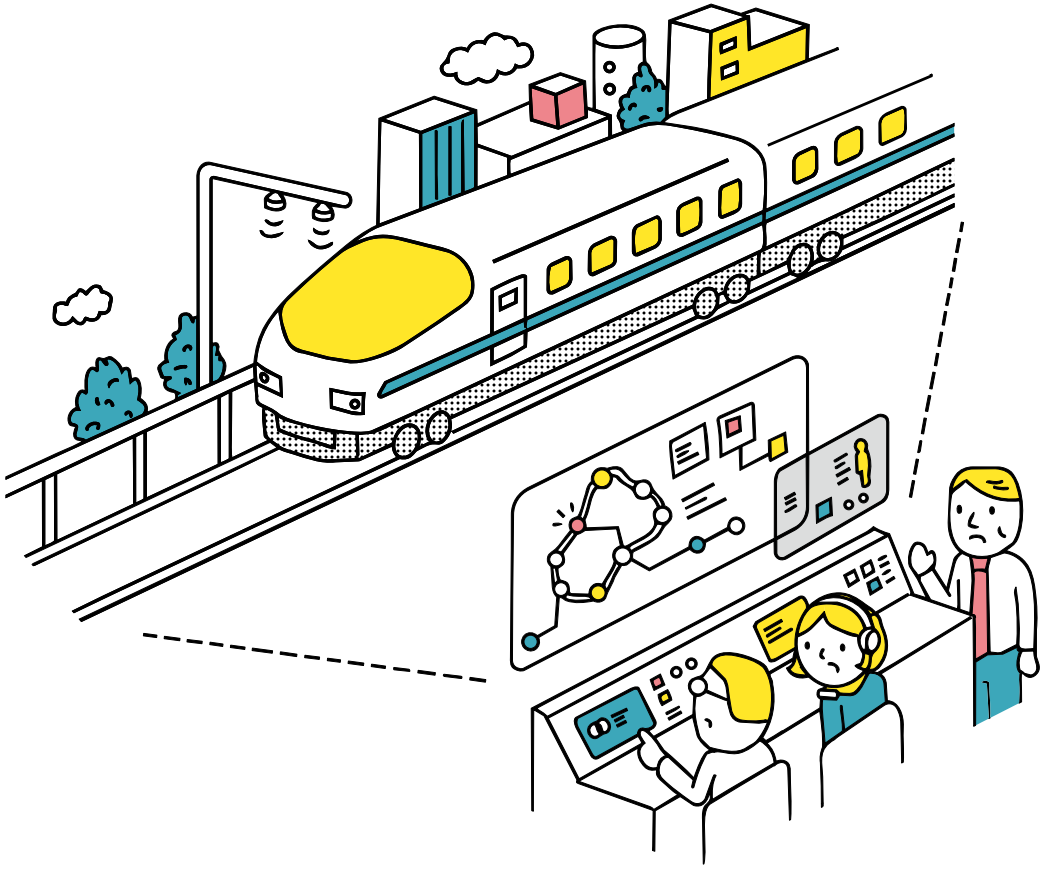


レール（軌道）検測

「ねじれ」や「ゆがみ」といったレールの異常を検知し、早期修復と脱線などの事故防止に貢献するとともに、滑らかな軌道を保ち、乗り心地の向上にもつなげます。

軌道材料検査

2次元センサを使用して非接触で軌道材料等のプロファイルデータを取得し、地上解析装置にて異常を検出します。



My PLEDGE S



インスペクションシステム営業部
荻原 さん

対話から始まる持続可能な鉄道の未来

お客さまとの対話を通じて現場が抱える真の課題を見出し、最適なソリューションを提供します。鉄道検測技術の価値を最大限に提供し、省人化・自動化と安全・安定輸送の両立を実現することで、持続可能な鉄道インフラの構築と社会の発展に貢献し続けます。



インスペクションシステム設計部
榊原 さん

信頼される検測技術で鉄道の安全、安心に貢献

装置を使用するお客さまが安心して検測業務を行えること、その先で鉄道を利用する人々の安全が守られていることを常に意識し、信頼性の高い設計を追求します。

事例

国内初・4Kカメラ搭載の電車線路モニタリング装置を開発 検査業務の省力化を実現し、鉄道の安全・安心・安定輸送に貢献

鉄道事業者にとって安全・安心な鉄道輸送を支えるため、鉄道設備の定期的な検査や保守作業は欠かせません。しかし、これらの検査業務は徒歩巡視や専用車両による近接検査など、目視による作業が中心であり、多大な労力を要するとともに危険を伴う場合があります。当社は、九州旅客鉄道株式会社（JR九州）のご協力のもと、「電車線路モニタリング装置」を開発しました。本装置の導入により、作業員の安全性向上と保全業務の効率化を実現しています。
また、JR九州は電気保安の確保・向上に向けた取り組みとその功績が高く評価され、一般社団法人日本電気協会「第70回澁澤賞」を受賞しました。当社も技術開発パートナーとして連名受賞しています。

営業車両の屋根上から電車線路を監視

「電車線路モニタリング装置」とは、在来線営業車両の屋根に設置したカメラで電車線路設備を動画撮影し、机上での監視を可能にしたシステムのことです。屋根上に搭載したカメラ8台は、あらかじめ任意に設定した収録スケジュールに対応して動画撮影します。カメラは4Kを採用し、トロリ、ハンガー、コネクタ等の電車線や、曲引き、張力装置などの設備を高精細な画像で収録します。画像と同時にGNSS（全球測位衛星システム）情報を取得し、設備の位置が把握できます。収録した画像データは地上処理装置で処理し、簡単な操作で検査作業ができるアプリケーションにより、検査業務の省力化を果たしました。

この装置により、作業員が目視で行っていた電車線路設備の点検作業の安全性向上と天候などによる検査品質のばらつき低減を叶えました。運用開始から5年が経過し、鉄道の安定送電と作業安全確保に貢献しています。

挑戦を支えた日立ハイテクグループの「知る力」と「One Hitachi」

画像処理分野への挑戦にあたり、日立の研究開発部門の技術支援を得て装置開発を実現しました。特に、黎明期であった機械学習による画像抽出やH.265形式*によるエンコード技術は、日立グループの幅広い技術力に支えられました。また、運用開始にあたり、設計元からの出向者が現場で運用をサポートしつつ、お客さまの業務理解を深めました。その結果、導入から2年でJR九州の交流電化区間全域へ検査範囲を拡大し、業務効率の改善と検査品質向上に貢献することができました。お客さまの実運用に入り込み、課題解決に取り組む姿勢こそが、日立ハイテクグループの「知る力」の活用だったと考えます。

今回の受賞について、担当者は次のようにコメントしています。「入社以来携わってきた本装置がこのような栄誉ある賞を受賞し、大変光栄です。今後も鉄道の安全・安心・安定輸送に貢献できるよう、さらなる技術開発に取り組んでまいります」。日立ハイテクは、これからも鉄道インフラの安全を支える取り組みを続けていきます。

*動画を効率的に圧縮する国際標準規格。従来より同じ画質で約半分のデータ量にできるため、ストレージやネットワーク負荷を大幅に軽減できる。特に4Kや8Kなど高解像度映像に適しており、動画配信や監視システム、鉄道モニタリングなど幅広い分野で活用されている



九州旅客鉄道株式会社に納入した電車線路モニタリング装置



一般社団法人日本電気協会 第70回澁澤賞 贈呈式にて
深谷さん（左） 亀田さん（右）
［産業・社会インフラ事業統括本部インスペクションシステム事業本部所属］

システムの特長

遠隔操作
- 無線通信による収録開始・停止制御
- システムの収録処理状況を遠隔監視

位置情報取得
- GNSS位置情報信号による緯度・経度データの取得
- 電柱位置検知と距離パルス信号の同期処理による位置補正

閲覧機能
- 画面表示切替、再生速度選択、画面分割選択、画像拡大が可能

自動制御
- 走行速度による収録開始・終了の自動制御
- 自己診断・自動復旧機能

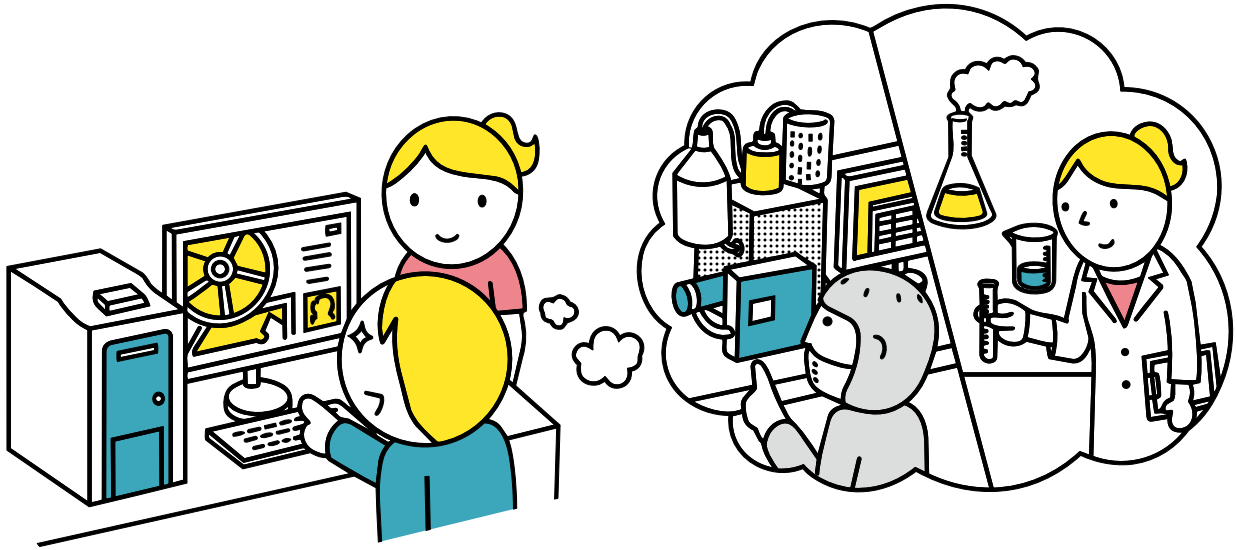
設備抽出
- 検査対象が撮影されたフレームを自動で抽出
- 電柱番号＋電柱からの距離に対する設備リストを表示

点検用途に応じた自由な画面分割（1面～4面）と部分拡大機能

科学の力で未来を切り開く人財の創出

次世代を担う人々が、科学を通じて未来で活躍する社会へ

次世代を担う子どもたちや学生が科学への興味や探究心を育み、自ら未来を切り開いていける社会の実現に向け、日立ハイテクは、理科教育支援活動の取り組みを進めています。国内外の地域社会と連携しながら、最先端の科学技術や製品・ソリューションを通じて、科学に触れ、考え、発見できるような学びの場を創出しています。学びを深める中で得た驚きや感動が核となり、将来の社会課題を解決するイノベーションの担い手として、さらなる高みへと挑戦し続けてくれることを願っています。



日立ハイテクの理科教育支援活動

卓上型の電子顕微鏡Miniscope®シリーズを活用した理科教育支援活動を世界各地で展開しています。出前授業やリモートでのミクロ観察体験を通じ、これまで世界で累計54万人の児童生徒に科学の面白さを伝えてきました。

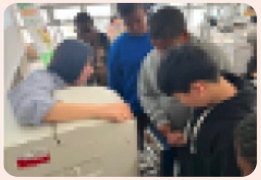
出前授業

小中学校で従業員が講師として電子顕微鏡観察を活用した授業を実施します。



イベント出展

科学イベントに装置を出展し、従業員により来訪者へ装置説明や操作体験を提供します。



装置貸与

高校や大学などの教育機関や科学館に中長期で装置を貸与、カリキュラムやイベントに活用いただきます。

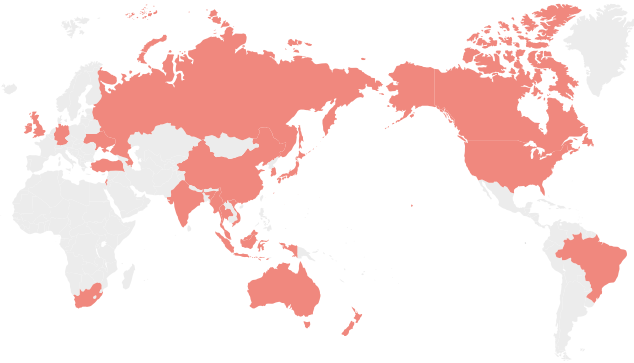


情報発信

ホームページやSNSで活動報告や、活動体験者のインタビュー記事、学習コンテンツやコラボ動画等を配信しています。



31の国と地域、累計54万人に活動を実施



事例

北米を中心とした地域における理科教育支援活動

Inspire STEM教育 アウトリーチプログラム概要

STEM教育の先進国である米国において、日立ハイテクアメリカ（HTA）は2011年から装置貸与を基本とした理科教育支援活動「Inspire STEM教育アウトリーチプログラム」を推進しています。

広大な地域で効率良く活動を展開するために、地域の独自性を生かしたプログラムを展開してきました。さまざまな教育機関やNPOとの幅広いネットワークや、教育者が作成したリソースのライブラリを備えたSTEMコミュニティを構築。オンライン活動体制の整備や教材キットの開発なども進めることで、最新のテクノロジーを使用する際の障壁を最小限に抑え、活動への参画者数を着実に積み重ねてきました。

この北米における活動の最大の目標は、参加した学生がSTEM市民になり、キャリアの準備だけでなく現代社会で成功し、リードするための自信、スキル、マインドセットを得ることです。

My PLEDGES



日立ハイテク アメリカ Harvey さん

STEM教育により持続可能で レジリエントな社会の実現に貢献

持続可能性への意識向上、多様な学生の参加拡大、将来の労働力給源の強化、企業のCSR目標の推進を実現する、戦略的なSTEMプログラムを通じて、持続可能な価値を創出し提供します。



日立ハイテク アメリカ Hamilton さん

有意義なSTEM教育へのアクセス を拡大し次世代の才能育成を支援

教育機関、産業界、地域団体との連携を築き、有意義なSTEM体験へのアクセスを拡大するとともに、学習者をテクノロジー、イノベーション、そして将来のキャリアの機会へとつなげます。

取り組み地域の事例

ブリティッシュコロンビア州ビクトリア（ビクトリア大学）



教員向けにSEMの遠隔操作によるオンライン実演を行い、授業での実践的な活用手法を提示しました。また、身近な素材のSEM画像を教材コンテンツとして公開し、継続的な学習機会を提供しています。

ミシガン州ホートン（ミシガン工科大学）

鉱物博物館にSEMを設置し、地元クラブへ標本撮影の機会を提供しました。さらに地域教育に貢献するため「半導体サンプルキット」を開発し、他地域やコミュニティへのリソース共有を展開しています。





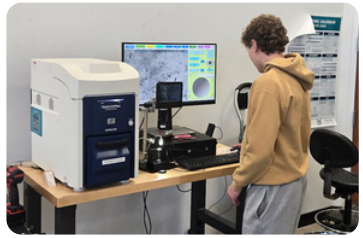
カリフォルニア州サンフランシスコ（エクスプロラトリアム）

多世代の来館者に遠隔操作によるリアルタイム観察や自作サンプルの撮影機会を提供しました。観察前の見え方予測や体験型ワークなどを組み合わせ、来館者の好奇心と批判的思考力を育んでいます。



オハイオ州クリーブランド（ユース・テクノロジー・アカデミー）

地域関係者との連携基盤を構築し、高校へのSEM貸与を実施しました。生徒が実際の材料表面特性分析を体験したほか、専門家による講演やプログラム初の学生アシスタント採用など、教育効果を高めています。



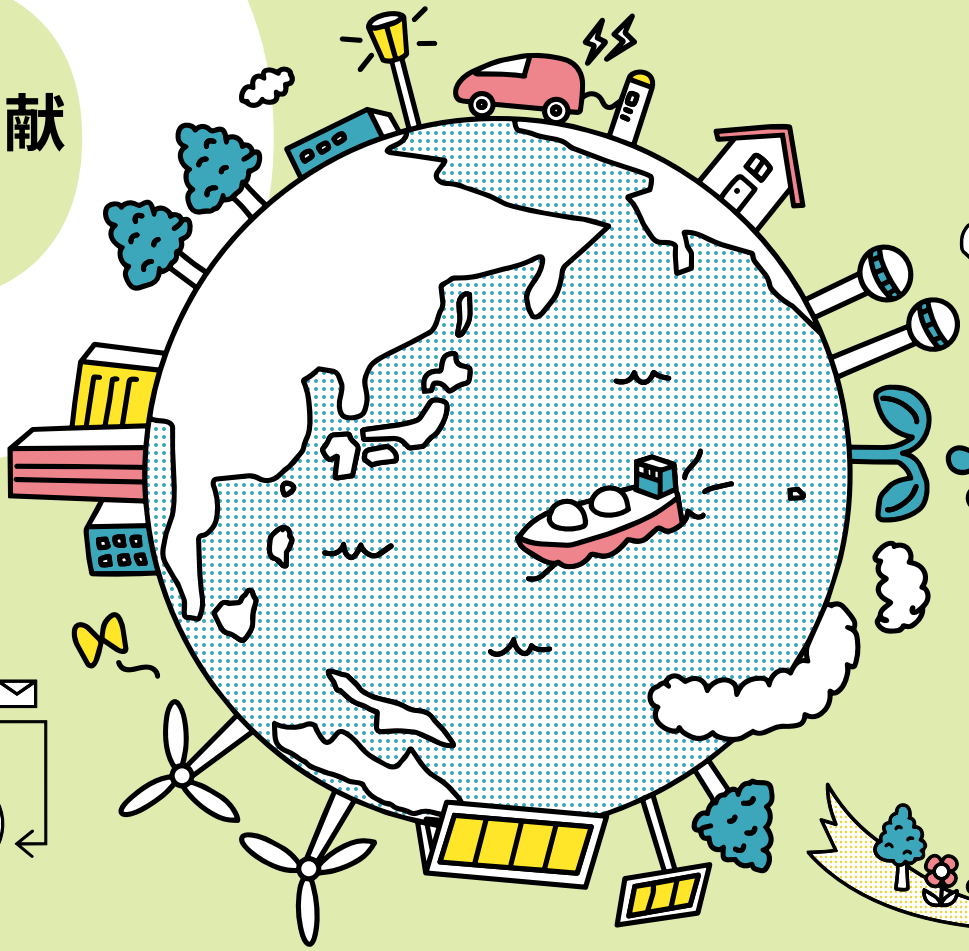


イリノイ州シカゴ（フィールド博物館）

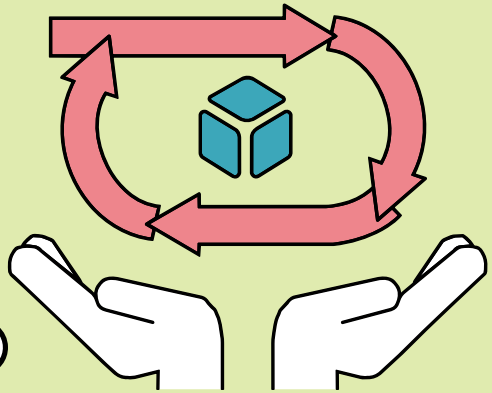
サイエンスハブにSEMを配備し、約1万9,000人の来場者へ標本の拡大観察体験を提供しました。クイズ形式の体験展示や研究者による顕微鏡操作の実演を通じ、ミクロ技術への理解を深める場を創出しています。

Planet

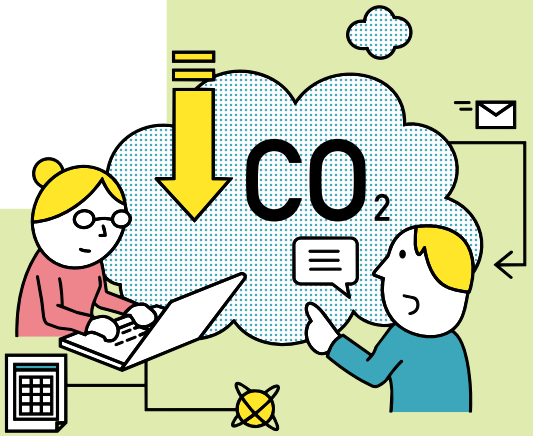
持続可能な
地球環境への貢献



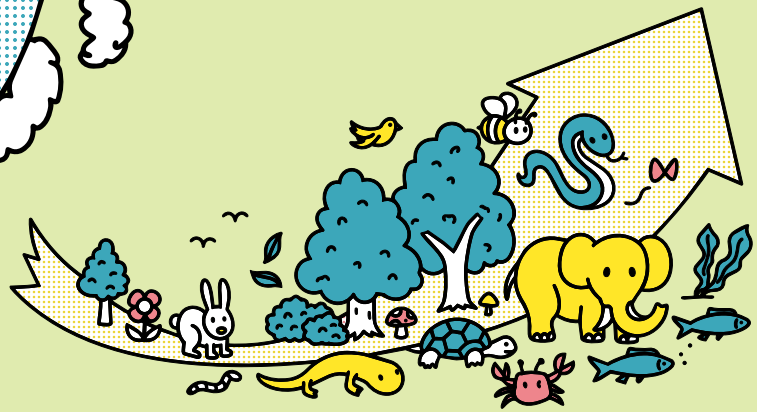
サーキュラーエコノミー



脱炭素



ネイチャーポジティブ



社会と企業の持続可能な発展のためには、地球環境と調和した企業経営が重要な役割を担っています。
日立ハイテクグループは、先端テクノロジーで事業活動に伴う資源・エネルギー消費と環境負荷の低減を図るとともに、
環境に配慮した製品・サービスの提供やバリューチェーン全体での取り組み等により、
「脱炭素」「サーキュラーエコノミー」「ネイチャーポジティブ」の実現をめざします。

脱炭素の実現に向けて

日立ハイテクグループは、調達から製造、物流、販売、サービス、製品使用や廃棄に至るまで、バリューチェーン全体を通じて温室効果ガスを排出しています。このため、気候変動への対応を重要な経営課題と認識し、顧客や社会からの環境負荷低減への期待に応えるべく、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを推進しています。脱炭素の実現に向けた中長期目標として、2027年度までに国内外の全拠点でカーボンニュートラルを達成し、2050年度までにバリューチェーン全体でネットゼロを実現することを掲げています。
これらの目標達成に向け、再生可能エネルギーの活用、省エネルギー設備の導入をはじめとする環境設備投資の推進、製造プロセスの改善および環境配慮設計などに取り組むとともに、調達パートナーとの協働を通じて、バリューチェーン全体でのGHG排出量削減を進めています。その結果、2025年度は国内外44拠点でカーボンニュートラルを達成しました。

Pickup Site

日立ハイテク 笠戸地区における取り組み

笠戸地区（山口県下松市）では、2025年3月17日に半導体製造装置（エッチング装置）の新製造棟を竣工しました。新製造棟では、再生可能エネルギー電力の活用や太陽光発電システムの導入により、カーボンニュートラルを推進しています。さらに、生産ラインのデジタル化・自動化を進めることで、省エネルギー化と生産能力向上の両立を図っています。

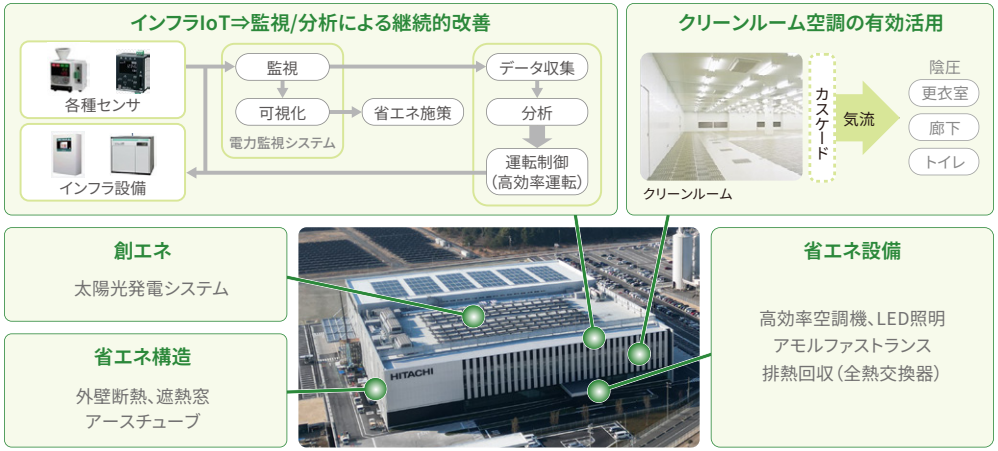
サーキュラーエコノミー施策
- 新製造棟タイルカーペットの廃材活用
- 分別廃棄の継続

ネイチャーポジティブ施策
- 構内花壇の外来種駆除
- はなぐり浜海岸清掃作業
- 化学物質使用量の適正管理継続


タイルカーペット施工例


はなぐり浜海岸清掃

カーボンニュートラル施策





表彰式の様子

「2025年度 いばらきデコ活チャレンジカップ」センター長賞を受賞
那珂地区那珂サイト・マリンサイト・たら崎サイトの取り組みが評価

日立ハイテクは、CO_2削減に寄与する取り組みを競うコンテスト「2025年度いばらきデコ活＊チャレンジカップ」において「茨城県地球温暖化防止活動推進センター長賞」を受賞しました。今回の受賞では、日立ハイテク 那珂地区那珂サイト、マリンサイトおよびたら崎サイトにおいて、太陽光発電システムを導入し、年間約743トンのCO_2排出削減に貢献している点が高く評価されました。さらに、那珂地区マリンサイトおよびたら崎サイトで再生可能エネルギー由来の電力の活用を推進し、カーボンニュートラルを達成した点も評価の対象となりました。

＊“脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動”の愛称

いばらきデコ活チャレンジカップとは？

茨城県内でのカーボンニュートラル推進を目的に、個人・企業・団体からデコ活の実施計画や結果、CO_2削減量を募集するものです。2025年度は350件の応募が寄せられました。

事例

CDP「気候変動」「ウォーター」において最高評価「Aリスト」企業およびサプライヤーエンゲージメントリーダーに2年連続で選定

日立ハイテクは2010年からCDP*1への回答を継続し、脱炭素およびネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みを進めています。その取り組みが評価され、CDPの「気候変動」および「ウォーター」分野において最高評価である「Aリスト」企業に選定されました。また、調達パートナーとの協働を通じたサプライチェーン全体での気候変動対応が評価され、「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」にも選定されています。これにより、当社は2年連続で3分野の最高評価を獲得しました。

*1 英国で設立された国際的な非政府組織（NGO）





事例

「日立ハイテクサイエンスの森」がJHEP認証の更新において最高ランクを継続して取得


JAPAN HABITAT EVALUATION & CERTIFICATION PROGRAM

認証書

富士小山事業所1号館エリア
生物多様性プロジェクト
［日立ハイテクサイエンスの森］

株式会社日立ハイテクアナリシス

JHEP

AAA

ECOSYSTEM CONSERVATION SOCIETY - JAPAN

日立ハイテクのグループ会社である日立ハイテクアナリシス 富士小山事業所（静岡県駿東郡）内に整備した「日立ハイテクサイエンスの森」が、JHEP認証*2において、前回に続いて最高ランクのAAA（トリプルエー）を取得しました。

JHEP認証は、日本生態系協会が生物多様性の保全に貢献する取り組みを定量的に評価・認証する制度で、5年ごとに認証更新が必要なものです。今回の更新では継続的に活動を行い、着実に成果を残したことが評価されました。

*2 Japan Habitat Evaluation and Certification Program。日本生態系協会による、生物多様性の保全への貢献度を客観的・定量的に評価、認証し、可視化する認証制度

日立ハイテクサイエンスの森

「日立ハイテクサイエンスの森」は、事業所内にある約44,000平方メートルの森林です。かつて人々の暮らしとともにあった里山を再生することを目標に、2015年度から針葉樹林の広葉樹林化、地域在来植物であるススキ草地の再生、外来種の駆除などを実施してきました。今回の更新においては、これらの活動を継続的に実施し在来の植物再生・保全に取り組み、近隣地域の生物多様性保全を推進する拠点の一つとして重要な役割を果たしている点が評価され、最高ランクを取得することができました。2021年度からは昆虫の棲み処であるインセクトホテルの制作・設置にも取り組み、2023年度には「自然共生サイト*3」に認定され、2024年度には「OECM（Other Effective area-based Conservation Measures）*4」として国際データベースに登録されるなど、さまざまな活動を推進し、社外からも評価を受けています。

*3 ニュースリリース（2024年2月27日）：「日立ハイテクサイエンスの森」が環境省より「自然共生サイト」に認定

*4 自然環境保全法や都道府県の条例に基づき自然環境保全や生物多様性の確保のために指定された保護地域以外で、生物多様性保全に貢献している地域


従業員有志によるススキの植栽作業の様子


「日立ハイテクサイエンスの森」（写真上部分）



Pickup 1　社員参加型「田植え体験イベント」

「脱炭素を実感する」取り組みへ ――日立ハイテクが田植え体験に込めた狙い

水稲栽培における「中干し延長」という農業技術と、企業のカーボンクレジット購入を結びつけたユニークな取り組みが、茨城県常陸大宮市の農地で動き出しています。NTTドコモビジネスが設計したJ-クレジット活用スキームに、日立ハイテクが「社員による田植え体験」とセットで参画。クレジットを購入するだけでなく、その創出プロセスに社員自身が関わることで、脱炭素を体感・可視化する新たなモデルを描いています。2026年5月23日には、茨城県の農家の皆さまのご協力のもと、社員参加型の「田植え体験イベント」を実施しました。

農業体験と連動したJ-クレジット購入で 脱炭素と地域共生を両立する新たなモデルケースに

日立ハイテクは、2027年度までにScope1・2のカーボンニュートラル達成という目標を掲げています。目標達成の手段としてカーボンクレジットの活用を進める中、単なる「クレジットの購入」にとどまらず、脱炭素の取り組みを可視化して社員の環境意識を高める手法を模索していました。解決策として着目したのが、水田から発生する温室効果ガスを削減する「中干し延長」を活用したJ-クレジットです。中干しとは、稲の栽培期間中に一度水田の水を抜いて田面を乾かす農業技術です。水を抜く期間を通常より延長することで、メタン生成菌の働きが抑えられ、CO_2の約28倍の温室効果を持つメタンガスの排出量を削減できます。

農業体験の舞台となった茨城県は、日立ハイテクの中核工場をはじめ多くの事業所が集積する拠点です。職場に近い農地から創出されたクレジットを活用することで、地域とのつながりを深めながら脱炭素の取り組みを推進しています。単に排出量を数字上でオフセットするのではなく、社員自らが田植え体験を通じて環境負荷低減の仕組みを学ぶ一連の試みは、脱炭素と地域共生を両立する新たなモデルケースとして今後の展開が期待されています。



初の社員参加型の環境イベントとして田植え体験を実施

脱炭素を“自分ごと化”



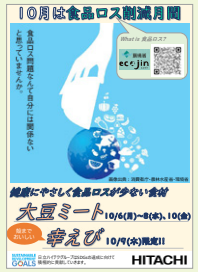
サステナビリティ推進部
永江 さん

カーボンクレジット購入によるオフセットには、どうしても「お金で解決する」というイメージがあります。だからこそ、社員自らが創出の現場に関わり、脱炭素の取り組みを可視化・自分ごと化していきたいという思いで、今回の取り組みを始めました。今後は、対象を環境担当以外の社員や家族へと広げていく方針です。「田植え→収穫→食卓」へと体験サイクルをつなげ、脱炭素の自分ごと化を日常に根付かせていきたいです。

Pickup 2　社員食堂サステナブルメニュー

社員食堂から広げるサステナビリティ―無理なく続ける環境配慮の取り組み

日立ハイテク那珂地区の2つの社員食堂では、食を通じて環境課題を考える取り組みとして、大豆ミートや持続可能な水産物などの環境負荷の少ない食材を用いたサステナブルメニューの提供を行っています。2025年度は6月・8月・10月・12月・2月の計5回（各回1週間）にわたり提供し、両食堂合計で3,069kgの温室効果ガス排出量削減を達成しました。メニュー開発においては、利用者が構えず自然に選べるよう、親しみやすい言葉や身近な味つけを意識し、調理現場の負担を抑える工夫も重ねました。今後は植物性食材のみの定食など新たな挑戦を続け、食堂から無理のない持続可能な活動を広げていきます。



食品ロス削減月間のポスター



那珂サイト食堂



マリンサイト食堂





左：大豆ミート唐揚げ（那珂サイト食堂）
右：大豆ミートの甘辛旨煮あんかけご飯（マリンサイト食堂）

Leadership Empowerment Diverse perspectives

多様な人財の育成と活用



- 人財の獲得・育成
- 個々人のリーダーシップ
- 従業員エンゲージメント
- カルチャー醸成
- インクルーシブな職場と成長機会

グローバル市場で競争を勝ち抜き、持続的な成長を実現するためには、
創造性・革新性のある価値をお客さまや社会に提供し続けることが重要です。
日立ハイテクグループは、その価値提供を担う人財を最も重要な経営資源の一つと位置付け、
多様性を尊重し、従業員一人ひとりの持つ力を十分に発揮できる
風土の醸成や仕組みの充実と環境の構築に取り組みます。
また、継続的なイノベーションを創出できる変革型人財の育成をめざします。

Special contents 現代の名工×次世代リーダー

匠の技能を人と組織の力へ
～電子顕微鏡製造を支える「知る力」の継承～

日立ハイテクの電子顕微鏡は、長期にわたって最先端の研究開発や半導体製造、医療まで幅広い分野で、目に見えないミクロの世界を可視化し、科学と産業の持続的発展に貢献してきました。電子顕微鏡は、観察・分析に加え、蓄積されたデータをHMAXで活用し、新たな価値を創出するデジタライズドアセットの役割も担っています。
日立ハイテクグループでは、「人こそ企業の財産」であるという理念の下、製造現場で培われた高度な知見や判断基準を次世代へつなぐため、自ら考え、改善を生み出せる人財の育成にも取り組んでいます。
今回は長年電子顕微鏡の製造に携わり、「卓越した技能者（通称：現代の名工）」（2025年度）に選定された綿引さんと、現在はチームリーダーとして人財育成を担う山名さんにお話を伺いました。



人財育成に携わるお二人に聞きました！

――担当業務を教えてください。

綿引　私が担当しているのは、TEM（Transmission Electron Microscope）と呼ばれる透過電子顕微鏡の組立・調整です。私は現在、主任技能士として、生産効率の向上や品質の確保、調達パートナーへの指導など、現場全体の技能向上に取り組んでいます。

山名　2015年の入社以来、TEMの組立・調整に携わってきました。現在は組立チームのリーダーとして、生産や据付業務に加え、作業改善や後進育成も担当しています。綿引さんから約2年間、直接指導を受けた経験が、技術技能者としての土台になっています。10年以上経験した今でも、電子顕微鏡は奥が深い分野だと感じます。



――人財育成で大切にすることは何ですか？

綿引　大型のTEMでは、全ての作業工程が初めから問題なく進むことはほとんどありません。後進の育成では、決められた手順を覚えるだけでなく、「なぜ、その作業が必要なのか」を理解し、自分で考えられるようになることを大切にしています。

山名　装置が目的の仕様に収まらないときには、調整作業だけで解決できるとは限りません。基板や機械部品など、装置全体に視野を広げて原因を探る必要があります。画面に映る像を見るだけでなく、時には耳を澄ませたり、五感や経験を頼りに、「何が原因か」を考える力が求められます。

綿引　私たちが育てたいのは、単に作業をこなす力ではなく、本質を理解し課題の背景を読み解く「知る力」です。この「知る力」を身に付けることで想定外の課題に直面した時も、自ら仮説を立てて対応できるようになります。

――あなたのMy PLEDGESは？



綿引　私のMy PLEDGESは「技能と情熱を次代へ継承する現場力の強化」です。技能と情熱を次世代へ継承し、一人ひとりが品質向上や改善活動を担うことで現場力をさらに強化させたいです。

山名　私のMy PLEDGESは「リーダーシップを発揮し生産現場の強化を図る」です。新しいことに挑戦しながら自ら技能を高め、その経験を後輩へ伝えていくことがリーダーとしての役割だと考えています。日頃から仕事だけでなくプライベートな会話も交えながら信頼関係を築き、一人ひとりが力を発揮できる強いチームづくりをめざしています。

「人こそ企業の財産」一人ひとりの価値向上をめざして

日立ハイテクグループは「人こそ企業の財産」であり、一人ひとりの人財価値を高めていくことがグループ全体の持続的な価値創造に直結すると考えています。この考えのもと、従業員一人ひとりにとっての仕事の意味や意義、価値観を重視したキャリア開発支援、グローバルに活躍できる人財の早期育成、最高水準の技能を有するモノづくり人財の育成に継続して取り組むとともに、全ての従業員が生成AIやデジタル技術を駆使し、生産性向上と新たな価値創出を実現できる人財の育成を進めていきます。加えて、全従業員が能力や創造性を最大限に発揮できる企業文化の醸成、環境の構築にも取り組んでいます。

重点取り組み



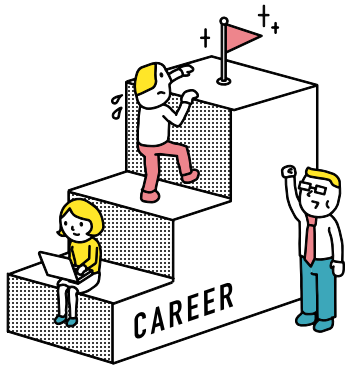
グローバル人財の育成

グローバルな視点でビジネスに対応できる人財の早期育成に向けて、若手の海外派遣に積極的に取り組んでいます。1年間の海外研修制度や社費留学制度を利用して海外で研修をしています。さらに、海外の各拠点で活躍するナショナルスタッフ向けのグローバル共通の基盤教育を設けるなど、グローバル人財の創り込みに向けて、一層の充実を図っています。



モノづくり人財の育成

半導体検査装置や分析装置等のハイテク製品を支えているのは、絶え間ない最先端技術の開発とそれを製品として形にする最高水準の技能です。当社では技能者の育成に積極的に取り組んでおり、その一環として毎年開催される技能五輪全国大会、全国アビリンピックに長年にわたり挑戦し、これまでに国際大会も含めて数多くのメダリストを輩出しています。今後も幅広い職種で最高水準の技能を発揮できる人財の育成に取り組みます。



キャリア開発支援

当社では、従業員一人ひとりが自らの意思でキャリアを切り拓けるよう、仕事に対する意味や意義、価値観を重視したキャリア開発支援を展開しています。具体的には、年代別キャリア開発研修やキャリアカウンセラーによるカウンセリング、社内キャリア相談室での個別相談を実施しているほか、会社が認めたキャリア開発のための短時間勤務制度や、留学・自己啓発・ボランティア活動のための休暇制度を整備しています。また、マネージャーが部下のキャリア目標を共有し、その実現と成長を支援する「1on1」や「Will-Can-Must」面談を実施するとともに、最新の知識やスキルを学べるオンライン学習環境を全従業員に提供しています。このような取り組みを通じて、従業員一人ひとりの主体的なキャリア形成を支援しています。

Pick up voice 海外研修生の声

日立ハイテクでは、海外派遣研修や留学制度などを通じて、グローバルに活躍できる人財の育成を進めています。今回は、日立ハイテクヨーロッパでの研修やコロラド鉱山大学への留学を経験した社員の声を紹介します。



日立ハイテクヨーロッパ本社（ドイツ）

自分の役割をより深く考えるように

ドイツではデュッセルドルフに滞在し、環境規制の監視やサステナビリティ情報の開示案作成などを行っています。語学は完璧ではありませんが、正確さより「伝え切る姿勢」を大切にしています。ドイツに来て、会議の目的や自分の役割をより深く考えて参加するようになりました。海外研修の経験を得られたことを、本当に感謝しています。

サステナビリティ推進部
市原 さん



コロラド鉱山大学（アメリカ）

完璧さにとらわれず、主体的に行動する

エッチングの基礎現象を深く学ぶために、先端技術交流生として渡航しました。最初は現地での英語や高物価に苦労しましたが、教会の英語クラスでは多国籍な友人もでき、完璧さより主体的に動く大切さを学びました。日本でも、アメリカで得た知識を業務に還元するとともに、研究室との関係維持や論文発表へつなげたいです。

プロセス設計部
田島 さん

事例

自分らしい働き方を、全てのライフステージで
仕事と家庭の両立支援

日立ハイテクでは、法改正の動向も踏まえながら、育児や介護に携わる従業員が安心して仕事と家庭を両立できるよう、制度の整備と浸透を進めています。在宅勤務、サテライトオフィス勤務、スポットリモートワークの対象者を全従業員に拡大するとともに、フレックスタイム制勤務では就業時間を自律的に選択でき、非就業日を設けて週休3日とすることも可能に。働く場所や時間を柔軟に選べる「ハイブリッドワーク」を推進しています。

また、出産を迎えた従業員が安心して希望する期間、育児休業を取得できるよう、「全力育児応援プロジェクト」を推進しています。制度を利用しやすい環境づくりを通じて、育児や介護などライフステージの変化にかかわらず、一人ひとりが自分らしく働き続けられる環境の実現をめざしています。

仕事と育児の両立支援制度

妊娠	プレパパ・プレママセミナー　不妊治療休暇（通算1年） 育休前・復職支援セミナー	子育てみらいコンシェルジュ	日立ハイテク子育て支援サイト
	妊娠通院休暇　妊娠障がい休暇など		
出産	出産休暇　配偶者出産休暇		
育休	育児休暇		
職場復帰	子の看護等休暇　短時間勤務 育児・仕事両立支援金　子ども・介護等支援手当など		

仕事と介護の両立支援制度

情報提供
介護コンシェルジュ（相談窓口）の設置 仕事と介護の両立セミナー 仕事・介護両立マネジメント支援ハンドブック配布
経済的支援
子ども・介護等支援手当、介護・仕事両立支援金、 介護・仕事両立体制構築支援金
休暇制度
介護休暇、年次介護休暇

勤務制度の柔軟化

- フレックスタイム制勤務
- 時間単位年休
- サテライトオフィス勤務
- スポットリモートワーク
- 単身赴任解消の取り組みなど

Pick up voice

二児の母の声

出産・育児、仕事・キャリア。どれも諦めないバランスを見つけた



経営戦略部
杉山 さん

設計部に在籍をしていた当時、第一子の妊娠中に主任技師を拝命しました。嬉しい反面、産休・育休を取得したら、みんなに迷惑をかけてしまうのではないかという不安もありました。そんな私に、周囲の方々が「仕事はなんとかするから、頑張って産んでおいで！」と声をかけてくれて。本当に勇気づけられました。

出産後は、仕事と子育てを両立する生活を早く確立したいと考え、産後2カ月で職場復帰しました。その際、上司から「子どもができて働き方を見直すのは当然。自分が働きやすい働き方を見つければいい」と言っていただいたことが印象に残っています。さらに、自分にしかできない仕事を減らすためにも、部下を育成してチーム全体のレベルを上げていくようアドバイスを受けました。それ以来、チームで協力しながら仕事を進めることを大切にしています。

現在は二人の子どもを育てながら、在宅勤務やフレックスタイムを活用し、経営戦略部の部長代理として働いています。出産や育児も大切ですが、そのためにキャリアを諦めるのは少し寂しい。どちらも大切にしながら、自分らしく働けるこの職場は、私にとって最高の舞台だと感じています。

ある1日のスケジュール

04:30	起床、朝ごはん、お弁当作り、夕飯の下ごしらえ
06:30	子どもと夫を起こす
08:00	保育園送迎
08:30	出勤、オフィス勤務
13:30	子どもが嘔吐したと保育園から連絡。時間有給を使い、保育園へ
14:30	子どもを自宅で寝かせ、在宅ワークを開始
17:30	勤務終了。子どもを病院へ
19:00	帰宅。家族で夕食
20:00	お風呂
21:00	子どもの寝かしつけ
22:00	就寝

一児の父の声

「子育てを楽しんで！」その言葉に背中を押された



評価制御システム設計部
佐藤 さん

妻の妊娠がわかってすぐ、出産や育児に向けた準備を始めました。周りには育休を取得した男性社員が何人もいたので、「どのくらい休むといいか」「どんな準備が必要か」など、いろいろとアドバイスをもらいました。話を聞くうちに、出産の大変さと喜びを知り、「授乳以外のことは全部やるぞ！」という気持ちになりました。

育休は2カ月取得しましたが、ちょうど開発のピークと重なっていたため、申し訳なさもありました。そんな私の気持ちを軽くしてくれたのが、上司や同僚です。妻の妊娠を上司に伝えると、開口一番「おめでとう！ いつから休む？」と言ってくれました。さらに、仕事の引き継ぎ方も一緒に考えてくれ、チームの仲間も「子育てを楽しんで！」と笑顔で送り出してくれました。おかげで仕事のことを気にせず、初めての出産と育児に専念できました。

新生児は毎日成長していきます。その姿を間近で見ながら、喜んだり、慌てたり、笑ったり。かけがえのない時間を過ごせました。復帰後は子育てを中心に、残業をできるだけ減らしたメリハリのある働き方に。慣れるまでは大変でしたが、今はとても充実しています。

ある1日のスケジュール

06:00	起床
07:00	子ども朝ごはん。登園準備
08:30	出勤、オフィス勤務
18:00	退社
19:00	子どもと晩ご飯
20:00	子どもとお風呂
21:00	在宅ワーク
22:00	リラックスタイム
23:00	就寝

事例

違いを強みに変え、一人ひとりが活躍できる環境へ

日立ハイテクグループが事業を展開するグローバル市場では、企業を取り巻く経営環境の変化が一層の激しさを増しており、その競争を勝ち抜くためには、継続的なイノベーションの創出により創造性・革新性ある価値をお客さまや社会に提供し続けることが重要となります。当社グループは、多様な感性や価値観を組織の活性化につなげる「ダイバーシティ・マネジメント」を経営の中核に据えて、経営トップのコミットメントのもと、成長実現に向けた重要施策として取り組んでいます。性別、年齢、国籍や民族、性的指向（LGBTQIA＋）、障がい・ニューロダイバーシティ*1など多様性を尊重し、従業員一人ひとりが、自身の持つ力を十分に発揮できる風土の醸成や仕組みの充実に積極的に取り組んでいます。また、国内・海外に展開するグループ会社とも連携しグループ・グローバル一体となってダイバーシティ推進に取り組んでいます。

*1 ニューロダイバーシティ（Neurodiversity、神経多様性）とは、Neuro（脳・神経）とDiversity（多様性）という2つの言葉が組み合わされて生まれた、「脳や神経、それに由来する個人レベルでのさまざまな特性の違いを多様性と捉えて相互に尊重し、それらの違いを社会の中で生かしていこう」という考え方であり、特に、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害といった発達障害において生じる現象を、能力の欠如や優劣ではなく、『人間のゲノムの自然で正常な変異』として捉える概念です。
「ニューロダイバーシティの推進について（METI/経済産業省）」より引用

LGBTQIA+の理解促進に向けた取り組み

LGBTQIA+フレンドリーな職場にするための実践的なガイドを配布したり、各種セミナーへの参加を促したりして、社員の意識を高める取り組みを行っています。2026年6月に開催されたTokyo Pride*2には当社社員も参加しています。 *2 LGBTQ＋を中心に多様な人権課題の解決をめざすアジア最大級のイベント



Pick up voice

デフバスケットボール女子日本代表 橋本選手インタビュー

周囲との信頼を力に、自分らしく挑戦を続ける



株式会社日立ハイテク九州
製造部モノづくりDXグループ
橋本 さん

東京2025デフリンピックで、日本女子バスケットボール代表は史上初の金メダルを獲得しました。その快挙を支えた一人が、橋本選手です。生まれつき聴覚に障がいがありながら、シューティングガードとして国内外の舞台で活躍。現在は日立ハイテク九州で働きながら競技を続けています。仕事と競技を両立しながら、自分らしく挑戦を続ける橋本選手にお話を伺いました。

私は小学3年生のときに友人に誘われてバスケットボールを始め、高校まで一般の選手と同じ環境で競技を続けてきました。大学時代に始めたデフバスケでは、同じ聴覚障害のある仲間と手話でコミュニケーションを取りながらプレーできることが嬉しく、新しい発見の連続でした。指示が瞬時に伝わらないときも、手話やアイコンタクト、サインを使って何度も話し合い、信頼関係を築いてきました。「できない理由」ではなく「工夫するきっかけ」と捉えることは、スポーツでも仕事でも大切にしています。


仕事中の橋本選手

現在は日立ハイテク九州の製造部で事務職として、部品や材料の手配、在庫確認など、モノづくりを支える仕事をしています。会議や電話など聞こえにくさを感じる場面では、筆談や文字アプリを活用したり、会議資料を事前に共有してもらったりと、自分に合った方法を工夫しています。社内研修では手話通訳を付けていただくなど、サポート体制も整っています。「手話を教えてほしい」と声をかけてくれる方もいて、とてもありがたく感じています。仕事と競技の両立は簡単ではありませんが、信頼、コミュニケーション、自分の役割を果たすことが、チームの力につながる点は共通していると感じています。

私が考える「誰もが輝ける社会」とは、「聞こえないからできない」のではなく、「聞こえなくても一人の人としてお互いに認め合える」社会です。手話やジェスチャー、文字、字幕など、さまざまなコミュニケーション方法が当たり前に使われ、誰もが自分の力を発揮できる環境が大切だと思います。聴覚障害のある方にも、あきらめずに好きなことに挑戦してほしい。一人で抱え込まず、周りのサポートを受けながら、夢や目標に向かって進んでほしいと思います。



迷いなく打った、3ポイントシュートが決まった瞬間

これからは、東京2025デフリンピックの経験を次につなげ、2027年、2029年の国際大会、そして次のデフリンピックでも中心選手としてチームに貢献し、連覇をめざします。シュート力と判断力を磨き、若い選手の手本となることが目標です。仕事でも、計画性と集中力を高め、周りから「任せたい」と思ってもらえる存在をめざします。

一丸となって戦い抜いたチームメンバーと

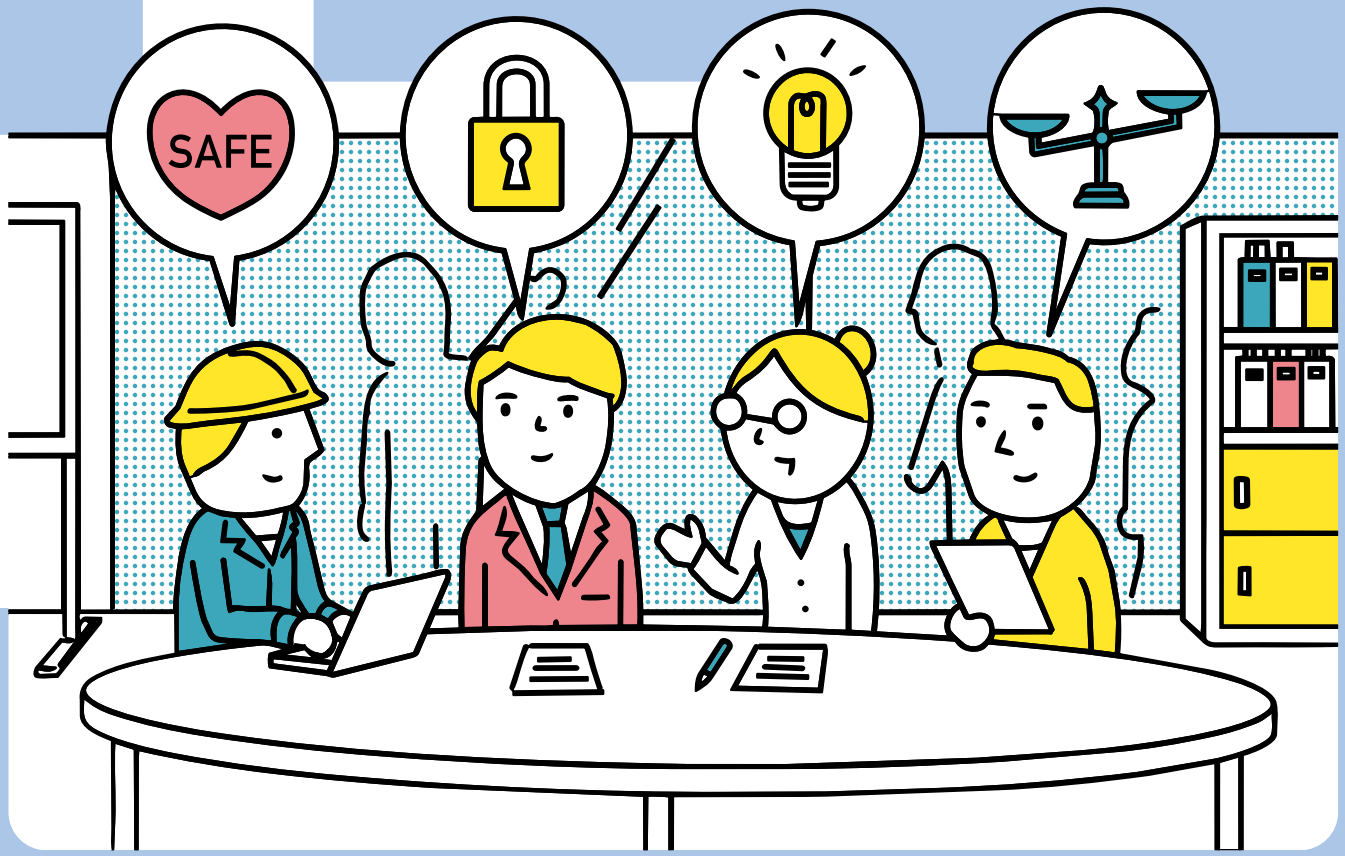


Governance

Engagement

健全な経営基盤の確立

- 企業倫理・コンプライアンス
- 安全衛生
- 品質・製品安全
- 情報セキュリティ
- AIガバナンス
- リスクマネジメント
- 人権
- デジタルプラットフォーム
- サステナブル調達
- イノベーションの創出



健全な経営基盤の確立は、企業の持続的成長に不可欠です。
日立ハイテクグループは、長期的に企業価値を向上させていくために、
ガバナンスを強化し、リスクマネジメントの高度化とバリューチェーンにおける人権の尊重に努めます。
また、事業の加速に向け、新技術とデジタルツールを業務に活用するとともに、
イノベーション創出の源泉となる、自社技術の革新と発想の展開に取り組みます。
社会から信頼され、必要とされ、社会に良い影響を与える企業であり続けます。

Special contents 設計×知財

持続可能な医療提供体制を支える小型装置の開発

医療需要が高まる一方、検査を担う人財の不足は、国内外の医療現場が抱える課題の一つとなっています。特に中小規模の病院や地域医療の現場では、限られた人員とスペースの中で、より多くの検査を迅速かつ正確に行うことが求められています。こうした課題の解決は、医療従事者の負担軽減だけでなく、検査結果の迅速な提供や診断・治療までの時間短縮につながり、必要な医療を必要な人へ届けるためにも重要です。
こうした医療現場のニーズに応えるため、日立ハイテクはロシュとの協創を通じて、生化学・免疫統合型自動分析装置「コバス pure」を開発しました。この装置を構成する生化学モジュール「cobas c 303」は、従来機種と比べて約1.5倍の処理速度を実現。その中核技術である、反応ディスクの動きを最適化する制御技術は、設計部門と知的財産部門が開発の初期段階から緊密に連携しながら権利化を進め、日立グループ全体の特許に関する表彰で上位の賞にもつながりました。今後も現場のニーズに根差した技術開発と知財活動でイノベーションを創出し、持続可能な医療提供体制を支えていきます。



コバス pure の設計&知財担当に聞きました!





――担当業務を教えてください。

安居　「コバス pure」に携わっていた当時は、生化学モジュール「cobas c 303」のシステム構築や基本コンセプトの策定、ハードウェアのレイアウト設計などを任されていました。

大谷　私は入社以来、知的財産部に所属しており、医用製品担当としてコバス pure の知財業務全般に関わりました。構想のかなり早い段階から特許取得まで、一気通貫して担当しました。


cobas c 303

©2026 F. Hoffmann-La Roche Ltd.

――開発への思いを聞かせてください。

安居　従来機種と比べて約1.5倍の処理速度を実現するという目標がありました。実現したい動きを数式化して表現してみたことが転機となりました。最終的に処理能力の向上と測定精度を両立させることができました。現場の課題を深く捉え、工夫を重ねた技術が高く評価されたことは、開発に携わった者として大きな意味がありました。

大谷　今回特許を取得した技術は、製品コンセプトの中核をなすものであったため、設計部との密な連携は欠かせませんでした。「従来技術と何が違うのか」「この動きによって何が可能になったのか」を何度も話し合いました。若い設計者が自分のアイデアに自信を持って挑戦し、その成果を社会に届けられるよう、知財の立場から精一杯サポートしていきたいです。

――あなたのMy PLEDGESは?

安居　私のMy PLEDGESは「ワークフローを改善し、医療・検査の価値を高める」です。エンジニアの立場から、医療現場や検査室の時代に合わせた要求に的確に応え、ワークフローを改善する新たな技術を生み出し続けることで、社会における医療・検査の価値向上に貢献していきたいと考えています。

大谷　私のMy PLEDGESは「技術の可能性をIPの力で社会の価値へ」です。技術を法的に守るだけでなく、その技術が社会やお客さまに対してどのような課題を解決し、最大の価値を生み出し続けられるかを見極め、引き出していくことが知財の使命だと考えています。

お客さまの信頼に応える品質保証

日立ハイテクグループは、「Safety ＞＞ Quality ＞ Delivery ＞ Cost（S≫Q＞D＞C）」の考え方のもと、安全と品質を全てに優先しています。品質保証部門は設計・製造部門から独立した立場で製品・サービスの品質を評価し、お客さまへ安心してお使いいただける製品を提供しています。開発・設計段階から出荷後のアフターサービスまで、一貫した品質保証活動を通じて、お客さまの信頼と社会の安全に貢献しています。

製品開発の流れと品質保証

品質は最終検査だけで確保されるものではありません。日立ハイテクでは、製品構想、設計、試作・認定、生産、出荷、据付、アフターサービスまでの全工程で品質を追求しています。品質保証部門は各段階で品質レビューを実施し、法令・規格への適合性や製品安全を確認しています。



製品構想

旧製品へのお客さまからの意見や故障事例を共有。新製品の仕様の修正に反映する。



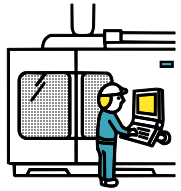
設計

新製品のデザインレビューを実施し、設計の早い段階での品質の作り込みを行う。



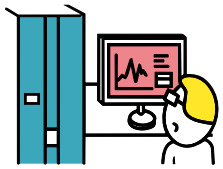
試作・認定

試作機を用いて形式認定試験を実施。国内の法令だけでなく、各国の関連法令に準拠しているかも試験する。



生産

初期の生産ロットでは詳細試験を実施し、装置ごとの性能や品質のバラつき、製造プロセスに問題がないか等を評価。



出荷

全ての製品は品質保証部門の出荷試験に合格してはじめて出荷できる。ひとたび出荷した製品の品質は責任を持って保証。



据付

製品仕様がお客さまの要望どおりか、お客さまが使用する環境に合致しているかなどの確認を行う。



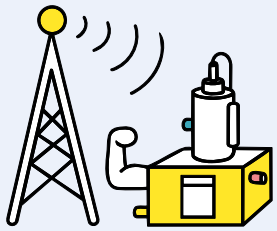
アフターサービス

現場におけるスムーズな課題解決と同時に、お客さまの声を次の製品開発に生かすという重要な責務がある。

Pick up 各国の法規制への適合を確認する「信頼性評価」

信頼性評価設備は、新製品の試作・認定段階において、温度・湿度、振動、電磁波、気圧など世界各地の使用環境を再現し、安全性・信頼性・法規制適合性を評価するために活用されています。

EMC試験



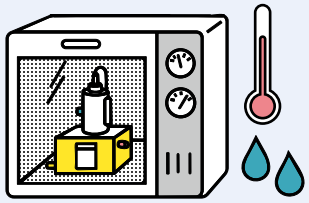
正しく動作するには、電磁波による誤作動を防ぐことが不可欠。EUのCEマーキングや米国FCCなど各国の規制に準拠したEMC（電磁両立性）試験を電波暗室にて実施し、世界市場で求められる安全性・信頼性を確認しています。

減圧試験



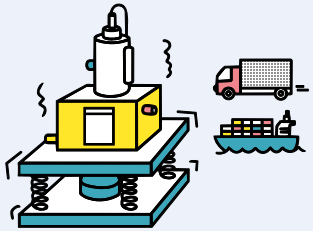
高地などの低気圧環境では、製品内部の部品や配管、電子機器に通常とは異なる負荷がかかります。実際の低気圧環境を再現し、製品が安全かつ正常に動作することを確認します。

恒温恒湿環境試験



高温・低温、高湿度・低湿度などの環境条件を再現する恒温恒湿室で、医用・バイオ製品や評価解析製品の環境試験を実施します。那珂地区では、大形恒温恒湿室8機および超大形恒温恒湿室1機を保有しています。

振動試験



製品は輸送中のトラックや船舶、設置後の運転環境などでさまざまな振動を受けます。振動試験設備でそれらの環境を模擬し、機械構造や電子部品に異常が発生しないことを確認します。

寿命試験

製品やユニットを長時間稼働させ、耐久性能や経年劣化を評価します。市場で長期間使用されることを想定し、部品の摩耗や性能変化を事前に把握することで、故障の未然防止や保守計画の最適化につなげています。

燃焼試験

発煙事故や発火事故などの再現試験を実施します。実際の事故現象を再現し、原因究明や再発防止策の有効性を検証しています。

事例

責任あるAI活用の推進

日立ハイテクグループでは、生成AIをはじめとするAI技術の活用を推進するとともに、適切な利用に向けたAIガバナンスの強化に取り組んでいます。AI倫理委員会を設置し、日立AI倫理原則に基づくルール整備やリスク管理、教育・啓発活動を推進しています。

併せて、生成AI活用委員会などから活用事例の共有や教育セミナーを実施し、安全かつ効果的なAI活用を推進しています。活用促進とガバナンス強化を両輪で進めることで、信頼されるAI活用と持続的な価値創造の実現をめざしています。


社員体験型セミナーの様子

9年連続で「健康経営優良法人（大規模法人部門）」に認定

日立ハイテクは、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2026（大規模法人部門）」に9年連続で認定されました。また、日立ハイテクグループとしては、5年連続で全ての国内グループ会社（持分法適用会社を除く）が「健康経営優良法人」に認定され、日立ハイテクフィールディングは上位500法人に与えられる「ホワイト500」に認定されています。

今回の認定では、健康経営を意識した管理職による組織改革と各職場への浸透に向けた取り組みに加え、従業員の心身の健康を支える施策が評価されました。引き続き、健康診断の傾向やストレスチェックの結果等を踏まえ、従業員の健康課題に応じた取り組みを進めていきます。

当社グループは今後も、従業員一人ひとりが健康で安全に、いきいきと活躍できる職場環境を整え、多様な人財の力を生かしながら、新たな価値の創出と「ハーモナイズドソサエティ」の実現に貢献していきます。

EcoVadis社のサステナビリティ評価で上位5%の「ゴールド」を2年連続で獲得

日立ハイテクは、国際的なサステナビリティ評価機関であるEcoVadis社の評価において、対象企業の上位5%に与えられる「ゴールド」評価を2年連続で獲得しました。

EcoVadis社は、世界185カ国、250業種、15万社以上の企業・団体を対象に、「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な資材調達」の4分野からサステナビリティへの取り組みを評価しています。今回、当社は、温室効果ガス排出削減への取り組みや労働・人権への配慮、企業倫理の徹底など、地域社会や地球環境に配慮した責任ある事業活動を推進していることが高く評価されました。

当社は今後も、お客さまやパートナー企業をはじめとするステークホルダーとの協創を通じて、バリューチェーン全体での社会課題の解決と持続可能な社会の実現に貢献していきます。

各製造拠点において取引先説明会を開催

調達パートナーへの情報発信と相互コミュニケーションによるCSR意識の共有は不可欠なものであるため、自社製品製造部門の調達品パートナー企業を対象に定期的な説明会を開催しています。当社の各製造拠点にて、年2回、日立グループ全体の「グリーン調達活動の推進」「サプライチェーンCSR推進活動」の取り組みを説明しています。当社グループの方針・考え方については、（株）日立製作所が発行する「日立グループ　サステナブル調達ガイドライン」を調達パートナーに遵守いただきたい行動規範として位置付け、同ガイドラインに基づいた社会的責任（倫理行動・人権配慮・労働慣行・環境問題・品質・安全等）についての説明を行い、調達パートナーとの検証と相互理解を深め、CSR調達活動を推進しています。

グリーン調達活動については、取引先説明会の場で調達パートナーへ日立グループ環境ビジョン・方針に沿って「地球温暖化の防止」、「資源の循環的な利用」、「生態系の保全」の具体的な活動を要請し、調達パートナーと協働で社会的責任を遂行する仕組みづくりを進めています。


取引先説明会（那珂地区）

発行元

株式会社 日立ハイテク

CSR本部 サステナビリティ推進部

日立ハイテク総合お問い合わせ